國學院大學学術情報リポジトリ

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか: 定型化されたダブルスタンダード表現としての「さん」と「氏」の使い分けをめぐって

メタデータ 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 和子, 女性と新聞メディア研究会 メールアドレス: 所属: URL https://doi.org/10.57529/00001133

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか

- 定型化されたダブルスタンダード表現としての「さん」と

「氏」の使い分けをめぐって―

田 中 和

女性と新聞メディア研究会

1 過去の調査にみる敬称の女男別使い分けとそ

2 データベースを用いた今回の調査方法につい

3 「女史」と「氏」の間で――アウンサン・ス

ーチーに対する敬称使用とその変遷

ノーベル平和賞受賞者への敬称使用にあらわ

れたダブルスタンダード

おわりに――ダブルスタンダード表現の解消に向けて

はじめに

35 (朝日新聞・毎日新聞・読売新聞) 女性と新聞メディア研究会は、男女雇用機会均等法が成立した一九八五年以降、ほぼ五年ごとに行う全国紙三紙 の ^定期観測 * を主軸に、新聞紙面にあらわれたジェンダー表現に関する量的

分析を継続してきた。

ここ二〇年以上にわたり、とりわけニューメディアの発展がもたらした多メディア・多チャンネル化にともなっ

國學院法學第50巻第3号(2012) ば、全国紙、ブロック紙、 て、 れている計算となる。また、 "旧メディア』の代表挌たる新聞の衰退が言われて久しい。それでもなお新聞は、 地方紙等合計で一日に四八三五万部が発行されており、一世帯あたり○・九部が購 多様なメディアの中でも、「社会に対する影響力がある」「知的である」「社会の一員 日本新聞協会の調査によれ

特性において、 方で、それは こうした特徴を有する新聞紙面の文章は、その時代の標準的な日本語として、広く社会に受け入れられてい 他メディアに比べ、より高い評価を得ているコミュニケーション媒体であることに変わりはない。(2) 同時代の社会意識を広くその中に取り込んでもいる。 したがって、 新聞の紙 面上にあらわ n たジ

一般社会のジェンダー意識を反映していると同時に、そうした社会に流布するジェンダー

強化させる役割をも果たしていると考えられる。

としてこのメディアに触れていることは大切だ」「地域に密着している」「情報源として欠かせない」などといった

これまでの女性とメディア研究会による一連の調査研究においては、ジェンダー表現について、 ほぼ五年ごとに定期的な 『観測』を行ってきた。 以下に示した三

無意識のうちに読者に刷り込み、

エンダー表現は、

つの基本的類型を析出して分析軸をつくり、

- される語、 女性であることを強調する表現 女性に対するステレオタイプ表現 女性冠詞、 女性の性を含み込んだ職業語、 他者との関係で女性が あらわ
- 表現 女性の存在が隠される表現 男性が世帯や家族を代表する表現、 女性が男性に付随ないし従属させられる
- 女性と男性とで扱いの基準が異なるダブルスタンダード表現 女性を業績や地位で扱わない 表現、 女性と

現の中の、 本論で論じるのは、右の三つの類型のうち、 定型化され、 必ずしも意識の上にのぼらないまま、 第三の「女性と男性で扱いの基準が異なるダブルスタンダード」表 日常的に遂行されている「女性と男性に対する異な

った敬称使用」である。

ではなく、 同じような立場にある男性が取り上げられるときのように、その手腕や能力、業績等がストレートに記述されるの この定義を踏襲している。 「二つの同様のことがらが異なった規準によってはかられ、 『ダブルスタンダード』の著書があるカナダの社会学者マーガレット・アイクラーは、 容姿や家族役割についても不必要に言及されるというのが、こうしたダブルスタンダード表現の典型で たとえば、政界、職業界、 スポーツ界などに進出している女性たちが記事になる際 評価されること」と定義づけているが、 ダブルスタンダード 本調査研究も

新聞はジェンダーをどのように表現し 「氏」を、女性には「さん」を用いるというような「氏とさんの使い分け」の慣行は、 につかなくなってきているようにみえる。一方、記事に出てくる人物の氏名に敬称をつけるにあたって、 に見受けられる。 この類のダブルスタンダード表現や描写は、 本研究開始当時には少なからず使用されてい 現在でもかなり根強い たが、 最近はな 男性 まり よう には

あろう。

37 象の三紙のうち毎日新聞と朝日新聞が、女性と男性をともに「さん」で統一するようになっているが、 においてもそのような動きがみられるのかどうか、 記事と死亡記事に分けて振り返ってみる。のちに述べるように、死亡記事で用いられる敬称については、 本論では、 まず、 過去二〇年にわたる「さん」と「氏」の使い 過去のデータから改めて検討しておきたい。 分けの各調 査年における実態とその変化を、 本調 般の記事

日本の新聞記事では「女史」が付される傾向が強かったアウンサン・スーチー(一九九一年にノー 「敬称の使い分け」の具体的な変化の様子をみるために、 世界的に著名であり、 本調査開始 嵵 平和賞を受 KZ 7

ベ

ル

國學院法學第50巻第3号(2012) 賞) れているが、 スーチーは、ビルマ(ミャンマー)における民主化運動を担う政治家として知られ、しばしば新聞で取り上げら を事例として、その呼び方の変化を各紙のデータベース・サービスを用いて量的に把握する。 姓名のあとにつけられる敬称が、 男性の政治家とは異なり、「女史」「さん」「氏」と、 時代によって

変化している。 本論で三番目に行うのは、 そうしたスーチーに対する異なった扱いの実態と変遷をみていく。 偉業をなし遂げた人たちが、その性の違いのゆえに新聞報道の上でどのように異

5 た扱いを受けてきたかについての分析である。 女性と男性とでどのような敬称の使われ方の違いがあるのか、 その例として、 スーチー以降、 データベース・サービスを利用してあとづけて 同じノーベル平和賞を受賞しなが

1 過 過去の調 [査にみる敬称の女男別使い分けとその推

(1)

ダブルスタンダード表現の典型としての敬称の使い分け

みたい。

られる敬称・ 新聞におけるジェンダーにもとづいたダブルスタンダード 呼称 (以下「敬称」と略記) が異なっている、 というものである。 表現の典型は、 女性と男性とで、 姓や名のあとに

特に、 政治· 経済・文化などの領域における著名人や有力者が新聞に登場する場合、 男性に にはフォ 7 ル で権威

女性にはより日常的で親近感はあるが権威は

氏

より下との印

的印象を与える「氏」がつけられるのに対して、

事の

中に登場する場合の、

双方に対する敬称の使われ方の異同、

および、②女性ないし男性の一

方の性が、

一 つ

象を与えがちな「さん」 が 使わ n る傾 向 が強 17 また、 か つては "功成り名遂げた" 女性に、 氏」とも「さん」

とも異なる「女史」が付される傾向 これ まで本調査研究では、 ジェンダーによる敬称の もみられた。 「使い 分けし を分析するにあたって、 ①女性と男性 司 . じ記

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか) 呼ばれていたことが 見庸氏」と紹介されているのに対し、 三日に掲 記事にそれぞれ 1 Ō 同 覧載され 記事中における女男の敬称の使い分けに関する具体例としては、 た 単独で登場する場合の敬 アフガニスタンの飢餓状況に あげられ る。 また、 同じパネリストでも脚本家の女性は 読売新聞 称の使わ つい n 一九九一年一〇月一五 方の ての討論会に関する記事で、 異同、 の二種類に分けて集計を行ってきた。 日におけるノーベル平和賞受賞者アウンサ 「小山内美江子さん」と「さん」づけで たとえば毎日新聞二〇〇 パネリストの作家の男性 年 <u>.</u> が 月

辺

ン・スーチーを紹介する記事では、 い分けがなされてい マイケル マ 、リス (略) た 氏と結婚、 「スーチー女史は一九七二年、オックスフォード在学中に知り合った英人学者' 二児がある」のように、 スーチーが 「女史」、夫が「氏」と、 女男で敬称 0)

次に②の、

つの

記事

に女性か男性のどちら

か

方

0

みが

出

現する場

合にも、

女男で異なっ

た敬

称 が

つ Ū

6

n

六年 傾向 は ーアン にあることは 〇月八日 チ・ ボ 国際 リトコフスカヤさん」と「さん」づけになってい 窗 同一 0) 面に掲載された二つの記事を比較してみるとよくわかるだろう。 「著名記者 射殺される」とい . う、 口 シアで記者の女性が射殺されたことを報じる るのに対し、 同じ国際面の たとえば読売新聞 「大統領次席補佐官 記 事

39 ブ氏側近 日 1の七面 辞任」 「人びと」 0) 記事 面の では米大統領次席補佐官の男性に「氏」 「新憲法草案めど立たず」というビル がつけられてい 7 関連の記事では、 た。 また、 |アウンサンスーチーさん_ 毎日新聞〇六年一〇月

セイン氏」と、氏が使われている。 と「さん」づけであるのに対し、 同じ「人びと」 面の ーサッ 力 審判拉致身代金20万ドル要求」 では 「ハジ ム・フ

(2) 同一記事中に女性と男性が登場する場合の敬称の使い分け

國學院法學第50巻第3号(2012) 段は、 事件数であり、その下は、同じ記事の中に登場した女性と男性に、 調査において、女性と男性に対してどのような敬称が用いられてきたか、その推移をあらわしたものである。(5) 表1は、 二重線をはさんだ下の二段は、 同一 の記事 一九八五年から二〇〇六年まで、過去五回にわたって行ってきた「新聞紙 (見出し、写真の説明文を含む) 一つの記事中に女性のみあるいは男性のみが登場した際に、 の中に登場した女性と男性に、 同一の敬称が使われていた記事件数である。 異なった敬称が 面にあらわれ それらの女男に 使われてい たジェンダー」 た記

は 九六年二〇四件、二〇〇一年一四八件、〇六年二五二件の記事件数となってい 両性ともに「さん」がつけられる同一敬称 表1の二重線より上の、 同じ記事中に女性と男性が登場した場合に最も多くみられる敬 (九六年第三回調査からカウント開始) であり、三紙合計で、 称 0 用 6 n

テレビ面、

広告は調査対象から除いてある。

ら一五日までの朝日

• 毎 日

•

読売各紙朝夕刊の

実物の紙面を対象としており、

小説、

マンガ、

株式市況、

これらは、

各調査年の一〇月一日

けられていた敬称について、

敬称の種類別に使用件数を集計したものである。

五件と少なかっ 次いで多いのは、 たが、 両性ともに「氏」がつけられる同一敬称で、 九六年八三件、〇一年三七件、〇六年七二件と、 本調査開始当初の一 増えて 九八五年 はゼロ件、 九一 年

記事に両性が出てくる場合、どちらに対しても同じ敬称が使われるのが

般的

ではある。

L

か

このように、

同一

41 新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか)

表1 女男別一般記事における敬称の使われ方の推移(3紙合計)

(単位:件)

						(-	一世・十二
			1985年	1991年	1996年	2001年	2006年
登同場一	女男で使い	女性「さん」/男性「氏」	12	25	36	7	19
場二	分け	女性「女史」/男性「氏」	4	7	0	0	0
記事	ガリ 	その他女性と男性別敬称	_	_	46	13	24
事中に		小 計	16	32	82	20	43
かり	<i>4.</i> 	女性「氏」/男性「氏」	0	5	83	37	72
) 男	女男とも同	女性「さん」/男性「さん」	_	_	204	148	252
H数) 大数) 大数) 大数)	敬称	その他女性と男性同一敬称	_	_	13	7	3
が		小 計	0	5	300	192	327
		氏	0	2	27	50	71
一同		女史	32	40	10	1	1
方一の記	女性単独の	さん	_	_	319	793	880
の記性事	場合の敬称	その他	_	_	12	40	87
が中登に		ニックネーム	-	_	_	24	13
登場(語と女男ど		小 計	32	42	368	908	1052
一色が		氏	_	738	875	2041	2421
のち	III III W VI O	さん	_	_	684	1855	1894
件ら	男性単独の	その他	_	_	108	66	97
数か	場合の敬称	ニックネーム	_	_	_	28	53
		小 計	_	738	1667	3990	4465
w rn	いず十部本						

件、二〇〇一年に七件、

〇六年には

九件

られた。また、

女性には「女史」

男性に

の八五年に四件、

九一年に七件みら

n

「氏」がつけられるケースも、

調査開 が、

始当

年に一二件、

九一年に二五件、

九六年に三六

けられるとい

う使い分けで、三紙合計で八五

つ

※ - 印は未調査

ちなみに、

載

なくなっているわけでは たのに対し、 氏 分けは、 このように、 九六年からは皆無となってい の使い 男性に 減少傾向には 分け は 政治面や社会面 同 氏 じ記 同 は 事 九六年 記 が 事中 0 用 な あるも 中 11 11 での で女性に から とい 5 れると 0 皆無とな つ 0 「女史」 た掲 決して は う使 ਝ'

れてい 記事 なが 女性には 5 0 中で、 るケー 表 1 「さん」、 スも見受けら 性別によって敬称が使 0 最上段にみるように、 男性に れる。 は 氏 その が 典 分 同

Û

面(6) 男性に「氏」 タに使い分け傾向の違いがあるかどうかを、二○○六年の三紙合計一九件についてみてみると、 が使い分けられた記事は、政治・経済系(一面、 総合・政治、 国際、 経済、 科学、教育の各面 女性に「さん」、

社会系 るジャンル) (社会面からなるジャンル)が一件であった。 が 九件、文化·生活系 (生活、文化・メディア、 地域、 スポーツの各面からなるジャ ンル) が 九件、 からな

同一記事中にみられる女男に対する異なった敬称使用の例を示しておくと、

政治・経済系ジャンル

に分類

した

國學院法學第50巻第3号(2012) 刊)、また文化・生活系ジャンルに分類したアミューズメント面で同じテレビキャスターであるにも 面で扱われていた同じ作家同士に対して、女性は「米原万里さん」、男性は「井上ひさし氏」(読売、 女性は「安藤優子さん」、男性は「久米宏氏」(毎日、一〇月二日)と呼ぶ、といった具合である。 か 一〇月六日夕 かわらず、

次に、

一つの記事に女性ないし男性の一方の性のみが登場する記事についてみてみよう。

(3) 同 記事中に女性ないし男性のどちらか一方の性だけが登場する場合の敬称の使 われ方

あるのに対し、 みた二重線より上段の数値は、 人物に、「氏」「さん」「女史」などの各敬称がどのくらいの頻度でつけられているのかを示したものである。 表1の二重線をはさんだ下段は、 下段の数値は、 その中で「使い分け」が行われていた、あるいは行われてい 使用されていた「各敬称自体の数」である。 同じ記事の中に女性と男性のどちらか一方のみが登場する場合に、 ない 「記事の件数」で それぞれ

第三回調査 ある。女性につけられた「氏」と「さん」のみならず、男性につけられた「氏」と「さん」の件数をも数え始めた この表下段をみてまず最初に気づくのは、 (一九九六年) 以降をみてみると、 何らかの敬称がつけられて新聞に載った女性と男性の登場件数の 九六年は、 女性三六八人に対し男性一六六七人で女男比は約 一対

女男の敬称の使い分けの傾向については、すぐあとでふれる。

そもそも新聞においては、 ケースが多いということが出現頻度の女男差の理由の一つとしてあげられようが、 五、二〇〇一年は、 九〇八人対三九九〇人で約一対四、 政治・経済関係の記事のウェ 〇六年は、 イトが高く、 一〇五二人対四四六五人で約一 男性の政治家や経済人などが取り上げら 紙面別にみた女男の登場 対四であっ 齆

うことである。 あるのに対して、 次に、 表下段から一目 男性が出てくる場合には大抵 瞭然なのが、 女性が出てくる場合は大抵 「氏」がつけられ、「さん」がつけられることの方が少ない、 「さん」づけで、 . 「氏」 が つけ られ ることは 稀

数をそれぞれ一○○%とした場合の各敬称の比率によって、女男に対する敬称の使われ方の違いを、 較ではなく、 敬称別の推移は表1下段に明らかなとおりであるが、女性と男性の登場頻度が異なるため、ここでは絶対数 「氏」と「さん」の両方を数え出した一九九六年以降の各年の女性の登場総数ならびに男性の登 みてみること の比

新聞はジェンダ-%、○六年が七一件、六・七%と、 ○一年は二○四一件、五一・二%、そして○六年に二四二一件、 変化がないことがわかる。 にしよう。 まず、女性に対する「氏」の使用は、一九九六年が二七件で敬称全体の七・三%、二〇〇一年が五〇件、 それに対し、男性に「氏」がつけられる度合いは、 絶対数では増えているもの O, 五四・二%と、 比率にすると一けた台で推移しており、 九六年には八七五件、 常に半数を超えてい 五二• 五、 あ 五. まり

年七九三件、 方「さん」 八七・三%、〇六年八八〇件、八三・七%と、経年によってもあまり変化がみられず、毎回八~九 の使用についてみてみると、女性に対する「さん」の使用頻度は九六年三一九件、 八六. 七%、

ほとんどみられなくなっている。

それに対し、 男性への「さん」の使用は、各年それぞれ六八四件、 四一・〇%、 八五五件、 四六・五%、

44 九四件、 う敬称は、 次に、 女性にのみつけられ、本調査開始当初の一九八五年には三二件、九一年には四○件みられた「女史」とい 四二・四%と、女性に対して「さん」が使われる比率の半分でしかない。 九六年になると一○件、二・七%へと減少し、二○○一年、○六年ともに一件、○・一%と、現在では

は「さん」、男性には「氏」がつけられやすいという傾向が今もって続いているのである。 このように、 記事中に女性ないし男性が単独で登場する場合には、使われる敬称の種類が大きく異なり、

(4) 紙面ジャ ンル別にみる女男どちらか一方の性だけが登場する場合の敬称の使われ方

けられているかを、 先に、 タから、 同 同 記事中の敬称の使い分けについて掲載紙面のジャンル別にみたのと同じように、二〇〇六年調査のデ 記事においてどちらか一方の性のみが登場する場合に、女性と男性それぞれにどのような敬称 紙面ジャンル別にみてみよう。 経済系の面における女男比は、二四〇人対二二九八人

女性と男性の登場比率をみてみたところ、政治・

のアンバランス自体が、政治や政策決定の場における女男の共同参画が進んでいないことの指標となっているとも 11 0) の約一対一〇であり、 わゆる |面での女男比は五一二人対一四五七人の約一対三、社会系の面での女男比は三〇〇人対七一〇人の約一対二で、 『軟派面』では、 ζ) わゆる 女男の登場比の差が小さくなっている。 『硬派面』では、男性の登場者が圧倒的多数を占めた。それに対して生活・文化系 この新聞記事の紙面ジャンルにおける登場頻度

(J

えよう。

あるのに対し、

男性への「さん」の使用は四〇三人、一七・五%にとどまっている。

次に敬称の違いをみてみると、まず、政治・経済系の紙面ジャンルでは男性の場合、二二九八人中一八六六人、

八一・二%と、 けられていた。「氏」の女男比には、約一対三の開きがある。 それに対し、「さん」に関しては、「氏」とは対照的に、女性への「さん」の使用が多く一六七人、六九・六%で 圧倒的に「氏」がつけられているのに対し、女性は二四〇人中六二人と、二五・八%に「氏」がつ

きがある。他方、女性に対する「さん」の使用は、大多数の四五五人、八八・九%を占め、それに対し、男性に対 は五一二人中七人と、一・四%に「氏」がつけられるにとどまっている。「氏」の女男比は一対二○で、大きな開 い点である。女男別にみると男性では、一四五七人中四二二人と、二九・○%が「氏」であるのに対して、女性で 続いて生活・文化系の面をみてみると、まず気づくのは、政治・経済系と比較して「氏」の使用が女男とも少な

なかった。この面における「氏」の女男比は、一対二七と、生活・文化系の面よりも差が大きい。 「さん」は、男性五四九人、七七・三%、女性二五八人、八六・○%に、使われていた。 八・七%に「氏」がつけられていたのに対し、女性では三○○人中二人、○・七%に「氏」が使われているに過ぎ する「さん」の使用は九四二人、六四・七%であった。 次に、社会系の面をみてみると、生活・文化系の面と同様「氏」が少なく、男性では七一〇人中一三三人、一

45 ひるがえって、より軟い面とされ、全体的には「氏」の使用頻度が低く、「さん」の使用頻度が高い生活・文化系 と社会系の面においても、 ひとたび女男別の 「氏」の使用頻度に目を転じれば、生活・文化系では女性は男性の二

「氏」がつけられる度合いが他の紙面よりは高いものの、男性と比較した場合にはその三分の一にとどまっている。

硬い面とされ、総体として「氏」の使用頻度が高い政治・経済系の紙面

では、

以上でみてきたように、

調査において、

人や喪主などに用

いられている敬 一般記事とは別に、

称

0)

使わ

n

方を集計したもの

死亡記事に出てくる死亡者本

あ

らわれ

たジ

エ

表 2 女男別死亡記事における敬称の使われ方の推移(3紙合計)

(畄位・件)

							(4-	立・十
				1985年	1991年	1996年	2001年	2006年
同一死亡記事 中に女男両方	女男で	使い分け	女性「さん」/ 男性「氏」	153	181	129	72	19
が登場	女男と	も同敬称	女性「さん」/ 男性「さん」	0	0	0	41	47
同一死亡記事	女	性	氏(単独および複数)	0	0	1	0	0
中に女男どち		注	さん(単独および複数)	5	9	3	6	10
らか一方が登	男	性	氏(単独および複数)	30	103	95	39	9
場) 	土	さん(単独および複数)	0	0	3	19	53
	そ	の	他	1	13	6	0	1
	合		計	189	306	237	177	139

※いずれも記事件数ベース

うに、

九六年までは皆無であった女男ともに、「さん」をつけるケー

(5) 死亡記事における敬称の使い分け

表2は、 本研究会がこれまでの 「新聞 紙 面 12

に一九件と大きく減少した。そしてそうしたトレンドと対照をなすよ 九六年一二九件と推移し、二〇〇一年は七二件に減じたあと、 る記事の件数を示してい 「氏」をつける使い分けは、 これによると、 まず、 . る。 同じ死亡記事内で女性に「さん」、 一九八五年一五三件、九一年一八一

〇六年

件 性

男

か一方の性が単独ないし複数で登場する場合に各敬称が用いられてい

して下の二つの段は一つの死亡記事中に、

数、二段目は、女性と男性に同一

の敬称が使われている記事件数、

7 件 5

女性あるい

は男性のどちら

の人びとに付される敬称が性によって使い分けられている記事の ある。最上段は、一つの死亡記事の中に女性と男性が登場し、それ(?)

〇分の 落差は政治・経済系よりも大きいことが明らかとなった。 社会系では二七分の一 といい う開 きが あ ŋ むしろ女男間

スが、

〇一年に四一件、

〇六年に四七件みられるようになっている。

|初の死亡記事では、 死亡した著名人の男性に「氏」がつけられ、 喪主となった妻や母を「さん」と表記するも

てきたか (田中和子ほか) は、 に「さん」がつけられ、その女性をとむらう男性には自動的に「氏」 (朝日、 のが多くみられた。一方、 また、死亡者本人をはじめ、 調査当初からほとんどみられなかった。 九六年一〇月二日夕刊)というケースのように、 ベストセラーを出した童話作家の「吉田とらさん」に対して喪主の 女性のみが死亡欄に掲載される場合、 一方、 男性の 死亡した本人が著名人でも女性である場合には、 みが 掲載される場合、 その人物の敬称として「氏」が使われ がつけられていた。 当初からほとんどの 聖 (さとし)氏 自 1 ること -スで 動的

うに表現し 使い に「さん」が使われるケースが増えてきている。 これを、各年の死亡記事合計を一〇〇%とした比率でみてみると、女性に「さん」、 分けは、 八五年には八一・〇%を占めたものが、 九一年五九・二%、 九六年五四 男性に「氏」を付す敬 四%、二〇〇一年四 称

氏

が用いられてきた。ところが、そうした「氏」

の使用は、

前述のように二〇〇一年から減少に転じ、

か

わ

0)

%と漸減してゆき、○六年には一三・七%に急減したことが確認できる。その一方で、 男ともに「さん」の扱いが、 二〇〇〇年代に入って死亡記事の敬称の使い分け件数が大きく変化をみせることになった理 ○一年は二三・二%、○六年には三三・八%と増加した。 九六年までは皆無だった女 一曲は、 毎 日が ち

性別 に かかわりなく女男とも「さん」という記述で統一したことによる。 ただし、 読売は二〇一二年現 在 死亡記

次いで朝日が二〇〇二年にやめ

Ź

死亡者や

く一九九九年に死亡記事における敬称の女男使い分けをやめ、

47 事における女性の呼称に「さん」、男性に「氏」という、女男で敬称を使い分ける記述を続けている。

いえない。

ては、 登場する記事の場合には、 い分けるダブルスタンダード表現が、 以上でみてきたように、 両性が同じ紙面に登場する場合にはダブルスタンダード表現が減りつつあるものの、女男のどちらか ジェンダーによる敬称の使い分けがいまだに続いており、その変化は必ずしも早い まがりなりにも死亡記事においては、 制度的に改められつつある。 新聞紙面上で性別によって「さん」と「氏」を使 しかし、その前にみたように、一 般記事に 一方が

る敬称の使われ方、③スーチー以降のノーベル平和賞受賞者につけられた敬称の女男別集計とその推移をみてい てみることにした。 紙面における女性と男性に関する敬称のダブルスタンダード表現について、 そこで、これらの傾向をより詳細にみるために、 具体的には、①本研究会でデータを取り始めた当初に使われることの多かった「女史」という敬称の頻度と推 ②典型的なダブルスタンダード表現がみられる一九九一年ノーベル平和賞受賞者アウンサン・スーチー 本論では新聞記事のデータベース・サ あらためて量的な調査を行い、分析し ービスを利用して、

デメリットはあるものの、一方で、実際の新聞紙面を読んでチェックするという膨大な作業を省くことができ、 た見落としがないというメリットがある。 新聞記事データベースには、 紙面構成や記事の面積、 そのため、 使用される語彙の出現頻度の集計には威力を発揮する。 写真などをビジュアルにはつかむことができない、 う

と新聞 メディ ア研究会は、 これまでも一 連の 新聞 ..紙面にあらわれたジェンダ 調 査のい くつ か iz お いて、

|査対象の新聞 (きくぞう) データベースを用いた分析を取り入れてきたが、 は、 IIビジュアル」、 女性と新聞メディア研究会の従前の調査に合わせて朝 毎日は 「毎索 (マイサク)」、 今回は全面的にデータベースに依拠して分析を行 読売は「ヨミダス歴史館」 H 毎 H 読売の三紙とし、 の 各東京本社 朝 \exists

朝 は

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか) 夕刊のデータベースを用いた。 ŏ 八 、六年九月 検索語としてそれぞれ、「人名」、「敬称」、 Ì タベースには、 記事の件数を集計した。なお、 か らの 記事 見出し、 が、 それぞれデー 記事、 写真のキャプションが全て電子化されて収録されてい -タベ 朝日は八四年八月からの記事が、 1 "人名AND敬称。 ス化されてお ŋ を用いて検索をか 開始時期 は 毎日は八七年一月 必ずしも け 各紙横 その語を含み込ん る。 並び から そのデータベ には の記 なっ 事が だ見 てい 読売 1 ス

0 7 7 そのため、 |紙のデータがそろい、 正確に比較できるのは、 八七年からである。

「女史」と「氏」 の間でiz 対する敬称使用とその

アウンサン・

スー

チ

ĺ

3

(1) ピ アウンサン・スーチー 軍事 政権は八九年に の 1 英語 べ ル 平 和賞受賞 国名を 「ミャンマー」

による

へと変更したが、

本稿では

「ビルマ」

といい

う

玉

ル

を用 か B 中 独立後、 ζ) -でも、 . る は、 民主化を訴える国民民主連 九六二年に軍事クーデターによる独裁政治が敷か 日本でもよく知られた国である。 盟 N L D 戦前の一 に所属 時 期に日本が占領してい ñ 民主化運動を担ってきたアウンサ 長らく軍事政権が政府を掌握する たが、 戦後一 九四八年に英 時代 が チ

しば は 『取り上げられてきた知名度の高い社会運動家である。 何度も政府によって拘束・軟禁され、 長年にわたって自由を奪われてきたことで、 その動 前が メディアでしば

國學院法學第50巻第3号(2012) だったラングーンに生まれ、 党に加わって総書記となり、 生・市民らのデモに参加し、 者と結婚し、 アウンサン・スーチーは、 子どもをもうけている。その後八八年にビルマに戻ったスーチーは、 「ビルマ建国の父」といわれるアウンサン将軍の子として一九四五 ビルマの民主主義と人権を回復する民主化運動の指導者として、 演説を行うなどしてたちどころに人びとの支持を集め、 インドや英国の大学で学んだのち、公的な仕事に就いていた。 民主化を求める戒厳令下での学 国民民主連盟 その間 シンボル的存在 年 にビル に英国人の研 N L D 0) の結 首

った。

が 翌九〇年の総選挙では、 らも民主化のための非暴力闘争を貫き、 は政権交代を拒んだため、 かしながら、 九八九年七月、 総書記のスーチーが軟禁中でありながら、 国際的に多くの非難が スーチー メッセージを発し続けた功績により、 は 軍 わき起こった。 事政権によって国家転覆防御法違反のかどで自宅軟禁され そのような中、 NLDが圧勝した。 九九一年、 スーチ にもかかわらず、 ´ーは、 ノ | 政 ベ 府に弾圧 ル平和 軍事政権 z 賞を受

残ったため、 ħ 行猶予つきで自宅軟禁) その後一 れたり、 スーチー 〇年以上にわたって何度も軟禁、 体調を壊して入院したり、 国際的にはなお信頼される政権ではなかった。 も七年半ぶりに解放されて、翌年には文民政権が生まれたものの、 となるなど、 二〇〇九年には国家転覆防御法違反で起訴され、 辛酸をなめる。 解放、 軟禁が繰り返され、 一〇年には二〇年ぶりの国会 L かしながら、 その間スーチー 政治犯が釈放されるなど政権も軟化 大統領をはじめ軍事政権 (連邦議 裁判に は 解放後の遊説中 会 いかけら 0) 総選 n て有 一挙が 0) 幹 行 部

(2) アウンサン・スーチーに当初付されていた「女史」

員となった。 はじめ、

一二年四月に行われ

た国会議員の補欠選挙では、

N L D

から立候補したスーチ

ーが当選を果たし、

国会議

半年の間に、 た。 とに敬称の「女史」をつけて表現する記事が大半であった。次節(3)で述べるように、九一年七月から一二月までの に解き、 に』ミャンマーのスー・チー女史がノーベル平和賞受賞」(朝日、一○月一五日)という見出しや、「今年の ル平和賞がミャンマー アウンサン・スーチーのノーベル平和賞受賞を報じる当時 (毎日、一○月一五日)と書かれた記事、また、「ミャンマー軍政がただちにスー・チー女史の軟禁を無条件 政治犯を釈放するよう求めたい。」(読売、一〇月一六日)とする社説のように、 スーチーの名に「女史」がついた見出しは、スーチーの名が出てくる見出し三紙合計一二二件のうち (旧ビルマ)の反体制・民主化運動指導者、アウン・サン・スー・チー女史(46)に決 (一九九一年一〇月) の新聞をみると、 スーチーを、 『解放 その名のあ シノーベ の契機 、まっ

メージが、この語にはつきまとっている。(8) 書の事をつかさどった女官。③社会的地位や名声のある女の人。また、その氏名に添える敬称。」とある。これ から転じて、 八八件と、約七割を占めた。 「女史」とは、『広辞苑【第六版】』によると、「①中国で、 男性中心の社会で「肩ひじ張った女性」、男性に仾して活動する女性への「揶揄的な敬称」というイ 後宮に仕えて記録をつかさどった女官。 ②日本で、 文

51 受賞時の九一年一〇月から一二月までの三カ月間に、 また、これも本稿後半の歴代ノーベル平和賞受賞者の敬称について量的分析を行う第4章で詳しく紹介するが、 三紙の見出しと記事の中でスーチーにつけられた「女史」と

スーチー「さん」という敬称の数が一〇六件、二八・七%、その他名前に何もつけない"敬称なし》が一五件、 いう敬称の総数は、スーチーの名が出てくる全三七○件のうち二四三件を占め、 六五・七%にのぼった。 次いで、

(2012)四・一%、「書記長」という、肩書き、が二件、〇・五%みられた。 一方、アウンサン・スーチーと同じ九一年にノーベル文学賞を受賞した作家の女性、ナディン・ゴーディマ

國學院法學第50巻第3号 どのように記述されていたであろうか。ゴーディマにつけられた敬称について、この年の受賞時一○月から一二月 た。ゴーディマの名が出てくる全四一件の見出し・記事に対する比率にすると三六・六%である。一方、「南アの にアパルトヘイト糾弾の著作」(読売、 いっぱいまでの見出し・記事ともに全てカウントしてみたところ、「91年ノーベル文学賞 一〇月四日)という見出しのように、「女史」が三紙合計で一五件みられ 南アのゴーディマ女史

場合はやや扱いが異なる結果である。 次いで三割近くが「さん」だったことと比較すると、同じ年のノーベル賞受賞者の女性であっても、 「女史」と「さん」、そして〝敬称なし〟に、表記がほぼ三分されたかたちだ。スーチーは七割近くが「女史」で、 ゴーディマの

の数は合計一四件で、三四・二%を占める。また、何もつけない

女性作家・ゴーディマさんにノーベル文学賞『人種隔離』批判」(朝日、一〇月四日)の見出しのように、「さん」

"敬称なし"が合計一二件、二九・三%あった。

数をみてみた。 同じ九一年にその他のノーベル賞を受賞した男性たちの、一〇月から一二月までの三カ月間の見出しと記事の敬称 それでは、 同等の立場にある男性には、どういった敬称がつけられているのだろうか。スーチーやゴーディマと

肩書き、一一件、 その結果、 物理学賞受賞者のピエールジル・ドジャンヌは、 〝敬称なし〟四件となった。化学賞のリヒャルト・エルンストは、「氏」二件、「さん」○件、 三紙合計で「氏」二件、「さん」〇件、「教授」の

経済学賞

次

てきたか とはあるが、スーチーはNLDの書記長の職にあったにもかかわらず「肩書き」呼称がほとんど使われてい いで「氏」がつけられるケースが多い。 っている。 このように、 同じ九一年のノーベル賞受賞者であっても、 ゴーディマの場合は作家のため、 男性は 「肩書き」で呼ばれることが圧倒的 所属や地位を示す肩書きがないというこ に多く、 なか

新聞はジェンダーをどのよ に表現し 表すのに用いる。 女の実家の姓氏に添えて、出身を示す語。 たことに、男性との大きな違いがみられる。 「氏」に関しては、『広辞苑【第六版】』によれば、「①同じ血族の集団。それを表示する名。 があてはまろうが、 『―は関西出身の実業家で』」と説明されている。 特段に、男性につけられる敬称とはされていない 『妻紀―』③人名に添えて敬意を表す語。 新聞記事の「氏」 転じて代名詞的 の場合は③の うじ。 「敬意をあらわ に話 姓。 ②嫁した 題 0)

53 の比較は、 ノーベル平和賞受賞者を対象に、 女性と男性の著名人に対する敬称の差、また同じ女性の著名人でも敬称が分かれるケー のちにあらためて数量的に調査を行って分析を加えることにする。 スについ 7

いい方であるというところに、ポイントがありそうである。

敬称としては もくだけた言い

"くだけた"

方、

接尾語「さん」は、『広辞苑【第六版】』では、「(サマ)の転①人名などの下に添える敬称。『さま』

方。『伊藤―』『奥―』②丁寧にいう時につける語。

『御苦労―』 『お早う―』」とある。

人につける

より

54 (3) ウンサン・スーチーのノーベル平和賞受賞時に目立った「女史」という敬称であるが、そもそも、スーチーに 三紙における「女史」の使用とその推移

限らず、 の数量と推移をみてみたい。 朝日、 新聞紙上では「女史」という敬称がどれほど使われているのだろうか。 毎日、 読売三紙のデータベースから、 スーチーも含む著名な女性たちにつけられている全ての「女史」 量的分析を行うにあたって、最初

國學院法學第50巻第3号(2012) れている説明文なども含む) その経年推移をみたものである。ここで数えたのは る。 グラフ1は、 したがって、 三紙それぞれの記事中で、「女史」という語が用いられていた記事の件数を、半年ごとにまとめて、 その語 が用いられたすべての頻度 の中にその語が一つ登場しても複数登場しても一記事 「記事件数」 (延べ語数) であり、 ではないことに留意する必要がある。 ある記事 (一件) としてカウントされて (見出し、本文、写真に添えら

ぞれデータベース化されている。ここでは各紙それぞれさかのぼれる限りのデータを表示したが、 全てそろうのは、八七年からである。 ている記事件数の推移をみると、 三紙のデータ

まず朝日は、

九

八四年七月~一

グラフ1から、

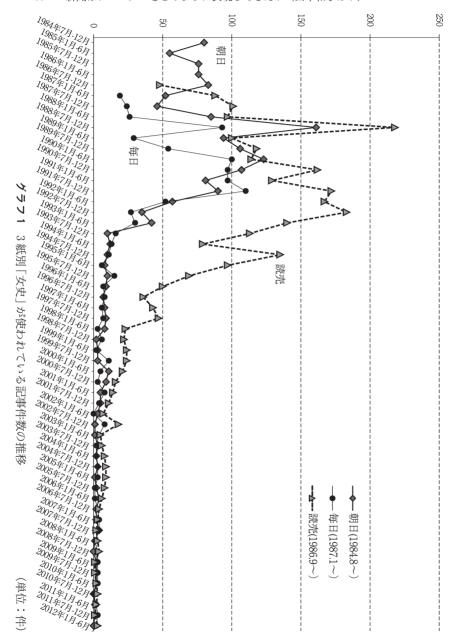
各紙別に、「女史」の使われ

査方法のところで述べたように、

朝日は一九八四年四月から、

毎日は八七年一月から、読売は八六年九月からそれ

二月 る。 とんどで、二〇〇八年下期、二〇一〇年下期では一件もみられなかった。 後の間で推移してきたものが、八八年下期には一気に一六一件に増加し、 一○七件と一○○件前後を維持していたものの、 八九年から九〇年代にかけては、 (以下「下期」と記述する)から八七年一月~六月 八九年上期九四件、 その後は減少傾向が著しく、 (以下「上期」と記述) 八九年下期一〇六件、 全調査期間中のピークを形づくって 九六年上期からは一桁台の場合がほ 九〇年上期一二三件、 にかけて五○件前後から八○件前 九〇年下期



三件へとはねあがった。そのあと、 次に毎日は、 データベース化が開始された八七年以降、二〇件前後を維持していたものが、一 九〇年上期から九一年上期にかけて一〇〇件前後と、 朝日と同 九八八年下期 様に高件数で推 だれ

九三年下期には一〇件前後、九六年上期からはほぼ一桁台となって、今ではほとんどみられなくなった。 移し、九一年下期に一一〇件とピークを迎える。 読売の場合は 前二紙とは少し様相が異なり、一九八七年下期の段階で「女史」の使用はすでに一〇〇件 それ以降は、「女史」が使用される記事数は徐々に減ってゆき

--を超

國學院法學第50巻第3号(2012) え、八八年下期には二一八件と三紙の中では突出した使用量となっていた。その後は、 の二紙に比べてかなり多い記事数を記録し、「女史」が使われた記事件数が一桁台で推移するようになるのは、 ではおおむね一〇〇件台の 二のピーク、 九四年下期の一三五件を第三のピークとして、少しずつ使用件数を減らしながらも、 ~高水準、を維持していた。そして九○年代半ば以降も、二○件から五○件という、 九二年下期の一八三件を第 九〇年代前半ま 他

紙よりもだい

. ぶ遅い、二〇〇三年上期からのことである。

以上三紙別の動向を見てきたが、

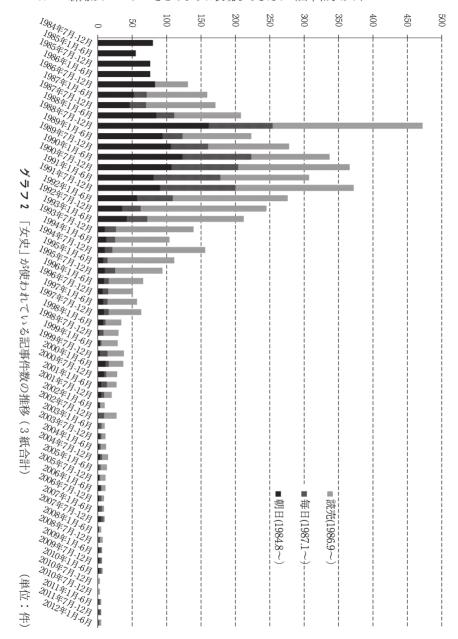
期間中の「女史」が出現する記事件数の総合計は、

朝日

毎日

最も多く、 なった。 使用記事件数半 みると、 集計した期間が異なるので、 七件、読売二七六〇件にのぼる。 朝日一二四三件、 毎日の三倍近くに、 -期あたりの平均を出してみたところ、 毎日九三七件、 各紙のデータがそろう一九八七年上期からの記事件数の総合計をあらためて計算して また朝日の二倍以上にのぼっている。八七年上期からの総合計をもとに、「女史」 ただし、前述したように、 読売二七一二件となった。 朝日は二五・九件、 各紙でデータベース化の開始時期が若干ずれており、 読売で「女史」という敬称が使われた記事が 毎日は一 九・五件、 読売は五六・五件と

グラフ2は、 朝 Ħ 毎 百 読売の各紙で「女史」 が使われてい る記事の件数を積み上げたグラフである。 紙



ものである。この時期には学者、芸術家、 この時にピーク)と最も多くなっていることが見て取れる。これは、主として国際面や外報面、 データ上でそろうのは、一九八七年上期からとなるが、これによると、八八年下期が合計四七二件 ー女史」「ブット女史」「ヒルズ女史」を筆頭に、 政治家などとして活躍している国外の女性の敬称として、「女史」がご 多数の女性が「女史」という敬称つきで登場した累積効果による 外電で、「スーチ (朝日と読売が

國學院法學第50巻第3号(2012) 数が増え、合計三七二件と、八八年下期に次ぐ第二のピークを形づくっている。 そして、アウンサン・スーチーがノーベル賞を受賞した九一年下期は、各紙とも通常より「女史」を用い た記事

く普通に用いられていたのである。

どみられなくなっている。「女史」は、 だがその後、二○○三年上期から、三紙合計でも一○件ないしそれ以下となり、この文字が入った記事はほとん もはや "生産力"を失った語といってよいだろう。 現在、 稀に 「女史」が

アムを跨いだ二〇〇〇年前半以降、 した場合などがほとんどである。 ほとんどなくなっている。 少なくとも新聞記者が記事を書く際に自ら「女史」を使用することは、 ミレニ

使われるケースとしては、作家など新聞記者以外の外部執筆者が寄稿した文や、過去に使われた文章をそのまま引

このように、「女史」という敬称だけに関していえば、 明らかに "化石化" しつつある。

か。 それでは、「女史」がなくなってきた分、女性に対してどんな敬称が付されるようになってきているのであろう

(4) 見出しにみるアウンサン・スーチーに対する敬称の

アウンサン・スーチーを事例として、 スーチーが新聞紙面上に登場する際にどのような呼び方がなされ

推移

スーチーがビルマに帰り、メディアで取り上げられるようになった一九八八年下期から二〇一二年上 期 ま で 0)

(田中和子ほか) しだけからも、 約して示すものであるだけでなく、一目で読者を惹きつけるためのアイキャッチャーという性格も持つので、 ると膨大な量にのぼるため、ここでは見出しのみに限って抽出した。 「スーチー」と表記された記事を検索し、その敬称を調べてみるが、 なお、 ビルマ人の名前には かなり興味深い傾向を見出すことができる。 「姓」がなく「アウンサンスーチー」で一つの「名」である。 記事件数、さらには語の全出現頻度を検 見出し(ヘッドライン)は、 が、 新聞では 記事の内容を要 「ス ーチ

てきたか サン・スーチー」ないし「スーチー」で統一した。 ー」「スーチー」などと表記の 表3は、三紙別に、見出しにおいて「スーチー」のあとに付されていた「女史」「書記長」「氏」「さん」「その がしばしば用いられているので、それに従った。また各紙ごとに、「アウン・サン・スー・チー」「スー・チ ″揺れ″ がみられたので、 異表記を全て検索条件に入れた上で、本稿では「アウン

新聞はジェンダーをどのように表現し いない ね この表3に示したように、 何らか *敬称なし、については、「その他」にカウントしてある。 事態や事件が生じた際に、 年譜と、見出しにスーチーが登場した記事の合計数の推移とを重ねてみると、 各紙ともに取り上げて報道する傾向が読み取れる。 ノ | ベ ル平和 賞 お お

の敬称の数を、

各年の上期と下期の半期ごとにあらわしたものである。

名前のみで敬称も肩書きもつけられて

59 禁からの解放 (九五年下期、 (〇二年上期、 同二七〇件)、 九二件)、 移動の制限 遊説中の襲撃と身柄拘束 (九六年上期、一三〇件)、再軟禁状態 (〇三年上期、 一一八件)、入院・手術と三度目の (九六年下期、 二〇〇件)、 再び軟

九一

年下期、

三紙合計で一二一件)、軍事政権との対話

(九四年下期、

同八二件)、

軟禁からの解放と記

者会見

	= 1	ΠÞ	質	در			元	1	Ę	#			Ш		Ą	Ĩ				П	#3	計				
□⊳		力	ď	早		□▷		七	ď	早		□⊳		T	ď	平		□⊳		方	ď	早		マ ス に し		時期
	その街	<i>ب</i> د ح	凩	書記長	女史	쿠	その街	%	凩	曹記長	女史	平	その街	& %	凩	書記長	女史	뿌	べの街	1 0x 1 >>	凩	書記長	女史	スーチーのトピックス		時期区分
22	1	1	0	1	19	14	1	1		1	11	4					4	4				,	4	・クーデター による軍事 政権誕生 ・NLD 設立、 書記長に	50万人集会で油当	1988.7-12
∞	1	0	1	0	6	1			1			2					2	5	L	i.		,	4			1989.1-6
26	0	0	0	0	26	9					9	6					6	11					11		• 自宅軟禁	1989.7-12
15	0	0	0	0	15	8					8	3					ప	4				ı	4	勝	・総選挙によ n NI D ナ	1990.1-6
10	0	0	0	0	10	2					2	6					6	2				ı	2			1990.7-12
7	0	0	0	1	6	3				1	2	3					ယ	1						ž F	・NLD書記	1991.1-6
121	ω	28	2	0	88	40		1			39	39	1	∞			30	42	2	19	2	,	19	・ノーベル平和貨吸貨	・サハロフ賞	1991.7-12
44	2	20	1	0	21	14		2			12	14		∞			6	16	2	10	1	,	ယ	国、再会	・夫と子がビ ルマド ス	1992.1-6

見出しにみるアウンサン・スーチーに対する敬称の推移

61 新聞はジェンダーをどのように表現してきたか(田中和子ほか)

	<u>=</u> #1		の無	ى د			77	ł	Ę	#			Ш		#	ii			П	1	4	計		
□▷	2	+	Ċ,	早		□▷		七	Č,	厚		□▷		<u>t</u>	ď	早		□▷		七	ď	早		時期区分 スーチーの トピックン
#	べの街	w ~	凩	書記長	女史	-	ペの街	بد ح	凩	書記長	女史	<u> </u>	その街	₩ ~	凩	書記長	女史	#	その街	N 2	凩	書記長	女史	長期区分 スーチーの トピックス
14	0	∞	1	0	5	4					4	5		5				5		ω	1		1	1992,7-12
36	1	20	2	0	13	12		1	1		10	10		7	1		2	14	1	12			1	1993.1-6 ・歴代ノーベ ル平和賞受 賞者が釈放 求める声明
19	0	12	ω	0	4	4					4	5		5				10		7	ယ			1993.7-12
51	0	37	1	0	13	14			1		13	17		17				20		20				・国民会議に よる新憲法 制定作業 ・国軍高官と 面会
82	0	51	0	0	31	34		బ			31	26		26				22		22				1994."-12 ・
52	п :	41	1	0	9	14	1	4			9	17		16	1			21		21				- 期限切れ後 と軟禁継続
270	6	237	1	51	21	83		62	1		20	103	6	92		5		84		83			1	1995.7-12 ・
130	31	88	1	10	0	27		27				72	29	32	1	10		31	2	29				・移動の制限 ・NLD 党員 の拘束

	=#I	□Þ§	学に	<u>.</u>			冗	H	₽L	ji.		П	I	Ę	作			П	1	4	===== #a		
□⊳	2	4	Ç,	早		□⟩		力	ď	早	□⟩		七	Ċ,	早		□⊳		大	ď	厚	テス に、 」	時期区分
#	その街	w ~	凩	書記長	女史	#	その街	₩ ~	凩	女史 書記長	#	その街	بد ح	凩	書記長	女史	뿌	その街	N ~	凩	女史 書記長	スーチーのス	区分
200	29	147	1	23	0	44	ш	43			102	27	51	1	23		54	1	53			・解放1年 ・NLD集会 禁止、民主 活動家拘束 に動家拘束 に動家拘束 に関係が決態に 自名前演説	1996.7-12
46	∞ ;	34	0	4	0	11	ш	10			22	7	11		4		13		13			・自宅前演説 集会禁止 ・NLD 騰 員 集会禁止	1997.1-6
47	ST 8	33	1	∞	0	14		13		Ľ	19	5	6	1	7		14		14			・解放 2年 ・NLD 集 会 に700人 ・NLD 集 会 禁止	1997.7-12
22	51	14	_	2	0	6		6			10	4	ω	1	2		6	1	5			・国連特使ビルマ訪問	1998.1-6
66	ь ;	61	1	ω	0	19		19			25	п	20	1	ω		22		22			・移動の制限 ・抗議の居座 り、車内ろ う城	1998.7-12
29	0 :	27	2	0	0	11		11			13		12	1			5		4	1		・ビルマ入国 を求めてい た夫エアリ ス、英国で 死去	1999.1-6
~	0	6	_	1	0	4		2	1	L	ω		ω				1		1				1999.7-12
14	⊢ 1	12	0	1	0	4		ယ		ш	6		6				4	1	ω				2000.1-6

63 新聞はジェンダーをどのように表現してきたか(田中和子ほか)

	= 1111	□▷;	二常	ى			売		린	H H		Ш	I	#	ì			Ш		盘				
□⊳	3	<u></u>	ď	早		□⊳	ž	4	Ğ,	厚	□⊳		七	Č,	展		□▷	Ъ	5	序;		ナ ス r 。 l 。		時期区分
#	その他	₩ ~	凩	書記長	女史	팩	その街	. so	凩	女史書記長	#	その街	% ~	凩	書記長	女母	#	みの街	¥ Д	曹記	女史	デーチーの ピックス		区分
80	0	79	1	0	0	22		22			30		29	1			28	20	90				移動の制限自宅軟禁	2000.7-12
28	0	28	0	0	0	8		∞			7		7				13	13	10				・国連特使ビ ルマ訪問	2001.1-6
18	0	18	0	0	0	7		7			4		4				7	,	ı					2001.7-12
92	w	62	27	0	0	37	2	34	_		24		23	1			31	1	25	2		類際	・ 軍政高官と 会談 合物書 格 本	2002.1-6
35	0	22	13	0	0	11		10	_		13		12	1			11		111	1				2002.7-12
118	1	58	57	1	1	33		32		1	33	1	26	5	1		52		52	ם ס		・逮捕者多数 ・身柄拘束、 解放求める 声明相次ぐ	・遊説中に軍部による襲撃に 連い	2003.1-6
108	0	52	54	2	0	26		26			40		26	12	2		42		42	ò		2 大學 []	・窓人院手・路外の手を	2003.7-12
19	0	10	9	0	0	7		7			5		ω	2			7		^	1				2004.1-6

	=11		弾	ىد			売		Ę	iii			П		伸				Ш		4	<u></u> 밤							
□▷		力	ď	早		□▷		七	Č,	早		□▷		七	ď	4		□▷	;	力	ď	厚			て。	X			時期
뿌	ペの街	2	凩	書記長	女史	뿌	4の街	× ~	凩	曹記庚	中女	业	その街	× ~	凩	書記長	女史		その他	w ~	凩	書記長	女史		ックス	スーチーの			時期区分
21	0	12	~	1	0	4		4				10		7	2	1		7		1	6						以	自宅軟禁を	2004.7-12
14	0	9	4	1	0	5		5				5		2	2	1		4		2	2								2005.1-6
18	0	11	6	1	0	9		~	1			57		ω	1	1		4			4						村	自宅軟禁を	2005.7-12
35	1	16	18	0	0	10	1	9				11		5	6			14		2	12				Ĭ	がまるとは、	・山の世界が	• 国連事務次	2006.1-6
13	0	10	ω	0	0	5		51				5		51				ω			ω								2006.7-12
24	0	18	6	0	0	11		11				∞		7	1			5			51						河水	自宅軟禁を	2007.1-6
61	0	48	13	0	0	18		18				21		20	1			22		10	12					r 対		国連事務総	2007.7-12
39	1	31	7	0	0	16	1	15				9		9				14		7	7			承	自宅軟禁を	が対対は	哲恵なの国	軍事政権が	2008.1-6

											,,																	
	=#1		が紙	ىد			売		ПД	ill ill		Ш	I	#	ì			Ш	I	47	計				\(
□⊳		七	ď	早		□⊳		4	ď	早	□⊳		t	ď	早		□⊳		七	ď	早			ಗ ತ	7-7			時期区分
#	その街	& ~	凩	書記長	女史	<u>=</u> #	その街	₩ ~	凩	女 使 書記長	=======================================	その街	2	凩	書記長	女史	뿌	その他	\$ \	凩	書記長	中女		クス	スーチーの			区分
25	0	18	7	0	0	9		9			7		7				9		2	7					\$ \frac{1}{2}	文本文 文本文)	・軟禁に抗議	2008.7-12
85	1	79	5	0	0	20	1	19			29		27	2			36		33	ω			放を求める 声明相次ぐ	 新追反対、解 	が開発を	万年次」承	- [国家転覆	2009.1-6
136	0	130	6	0	0	44		44			42		39	ω			50		47	బ			·自宅軟禁	特数	常の対象で	非で夫刑言	・国家転覆の	2009.7-12
47	2	38	7	0	0	17	2	15			13		13				17		10	7			・NLD 政 党 資格を失う	選挙不参加	NI.D A	のだめの選	• 年内総選挙	2010.1-6
96	0	87	9	0	0	31		31			35		35				30		21	9			で演説、4万 人参加	• NLD 本部前	館坊 - 85 人 7	・ 7 年半 ご D ご	20年ぶりの連	2010.7-12
27	0	24	ω	0	0	9		9			11		11				7		4	ယ			府側と会談	ガーボー製	マヨヨッコー	・ベーケーに要求消剰に	・新政府設立	2011.1-6
100	0	86	14	0	0	30		30			46		46				24		10	14			表明	選に立候補	油炭素分益	元として井	・NLD、塚	2011.7-12
145	ω	36	106	0	0	41		14	27		66		20	46			38	3	2	33			NLD よ り 立 候補し、当選	会補欠選挙に	・ドルマ連邦藩	17安貝宏藏女	• NLD 中央執	2012.1-6

期一四五件)といったように、 件)、そして民主化とともに行われた国会議員の補欠選挙への立候補 決・執行猶予と軟禁 (〇三年下期、一〇八件)、 (〇九年下期、一三六件)、七年半ぶりの解放とNLD本部前での演説 ドラマチックな展開があった際に、三紙合わせて八○件から一○○件を超えるス 国家転覆防御法違反による起訴 (〇九年上期、 (一一年下期、 八五件)、同法違 一〇〇件) と当選 (一〇年上 反による実刑 (一二年上 期、 九六

アウンサン・スーチーに付された敬称に関する三紙合計の動きと特徴

チー

-名を見出しに掲げている。

(5)

國學院法學第50巻第3号(2012) する敬称がどのようなトレンドとなっているのかをグラフ3によって、 ○○%として、比較帯グラフであらわしたものがグラフ4である。三紙全体の見出しにあらわれたスーチ グラフ3は、三紙を合計したスーチーに対する敬称別積み上げグラフである。 また各時期に、 また、同一のデータを、 各敬称がどれくらい 各時期 の比 1 · に対

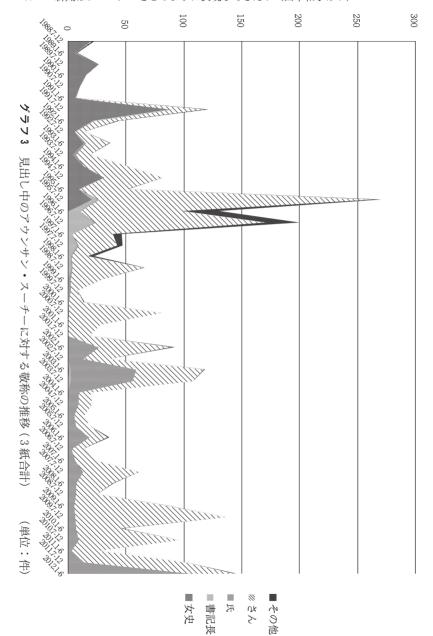
を占めていたのかをグラフ4によって、それぞれ把握することができる。

%を「女史」のついた見出しが占めていた。それに対し、「さん」は二八件(二三・一%)、また「氏」は二件 (一・七%) にとどまっている。グラフ4の比較帯グラフでみると、 敬称使用の第一 グラフ3と表3によると、ノーベル平和賞受賞が報じられた一九九一年下期がスーチーに対する「女史」とい 回目のピークとなっており、三紙合計で全一二一件の見出し中八八件、比率にして全体の七二・七 調査開始時の八八年下期から九一年下期まで、 . う

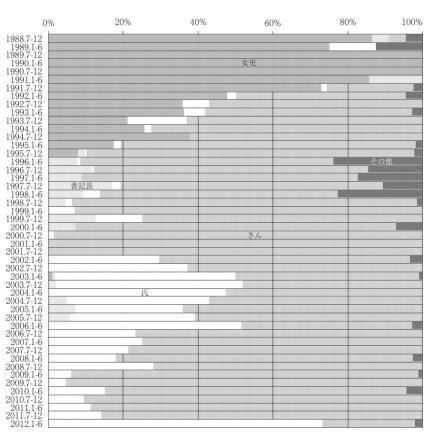
期に、 その後、 調査期間中最も多い二七〇件もの見出しが紙面に踊ることとなった。そのうちの二三七件(八七・八%)と 九五年七月に自宅軟禁から解放されたことにより、 スーチーに関する報道が一気に増えたが、 九五年下

「女史」の占める割合が毎回六割以上に達していたことがわかる。





られ % 大多 た したとい 用 7 に 0 n 女史」 肩書 七件 で は、 0) ŀ 61 Ť. た W が 二 る 数数 配 る。 六 と激減 見 7 が ル 件 . き 年下 が、 12 毎 が お 出 の見出し (七三・ 一〇〇件中 九件 そ · う り、 た連 ここでは ス 日 つきの L さん そ 期 してい 1 玾 が 0) は二一 他 載 由 n チ 0) 「女史」 l - 書記 五% 第二 は 記 1 五. 見 は る。 四 12 事 0 「さん」 と % 出 「書記 ゼ 件 分類 名を 長 同紙 が 0 後述する • 11 五. が ŕ 続 口 K う そして 七 を多 とな É 敬 とい $\overline{\%}$ 対 つ 哑 長 1 っそ 11 け が 称 n 7 称 L ク • Ī 诗 次 た な 夕 用 う 2 0 が 9 7 5 を 11



グラフ4 見出し中のアウンサン・スーチーに対する敬称の推移(3紙合計)(単位:%)

○○%近くを「さん」が占める状態が続いた。

といい う事 が主流となり、 情による。 同時期から九八年上期あたりまでのしばらくの間 グラフ4からは、 |女史| が九一年下期以降漸減してゆき九六年上期には 「書記長」と「その他 (敬称なし)」 皆無となって、 が お _ خ

明らかなように、 おの一~二割程度を占めた時 その後、 グラフ3にみるように九八年下期ころから見出し数は増減を繰り返す傾向がみら その敬称は 「さん」がほとんどで、 期があったことがわかる。 九八年下期あたりから二〇〇一年下期までの数年 れるが、 グラフ 蕳 は 4 ほ か

5

新聞はジェンダーをどのように表現し てきたか ことが、グラフ4からもみて取れる。この時期 (6)節で述べるように、 を「氏」の増減が示す期間が、〇八年下期くらいまで続く。 中二七件、二九・三%が「氏」となったのを皮切りに、見出し スーチーが出現する見出しに、「氏」 朝日が 同時期に、 が目に見えて使われ スーチーに関する記事の見出しに「スーチー氏」という呼び方を比 「氏」のシェアが高くなっているのは、このあと各紙別に分析 出すのは、 同時期に三〜五割近くを「氏」が占めるに至 の総件数が経年により上下するのとほぼ同様 〇二年上期 からである。 この年、 全九 較的 7 の する 11 動 件 る

く用いていたからである。

かしながら、

〇九年上期

あ

たりから以後、

グラフ3に明らかなように、

氏

という見出

L

0 増

減

が

見

出

総

られ 件数 になっていくさまがみて取れる。「スーチー氏」 なくなった。 0 動きと比例するような動きはなくなり、「さん」は増減しても、「氏」は常時ひとケタ台でほとんど動 グラフ4からも、「氏」は一時期よりその比率を減らしていき、 が、 そのまま増えるかにみえたのだが、 ふたたび「さん」 それは必ずしも定着しな が 敬称 きが 0) 主 流

このように、 【八〇年代後半~ 九〇年代前半=「女史」】 \downarrow 【九〇年代後半=「さん」 と 「書記長」「その 他 敬

か

たのである。

敬称がその都度変化してきたわけだが、ビルマの民主化が進み、スーチーが国会議員の補欠選挙に立候補すること が取り沙汰されるようになった二〇一一年下期には、表3に示したように「氏」が二桁台の一四件へと増加し、 なし)」】→【ミレニアム前後=「さん」】→【二一世紀前半=「氏」と「さん」】→【二〇一○年前後=「さん」】へと

國學院法學第50巻第3号 (2012) 二年四月に国政選挙の補選が行われ、拘束を解かれて政治活動を再開したスーチーが当選した一二年上期には、 ラフ3から明らかなように、 、「氏」の件数と比率が急激にはねあがって、表3とグラフ4にみるように、 全一四五

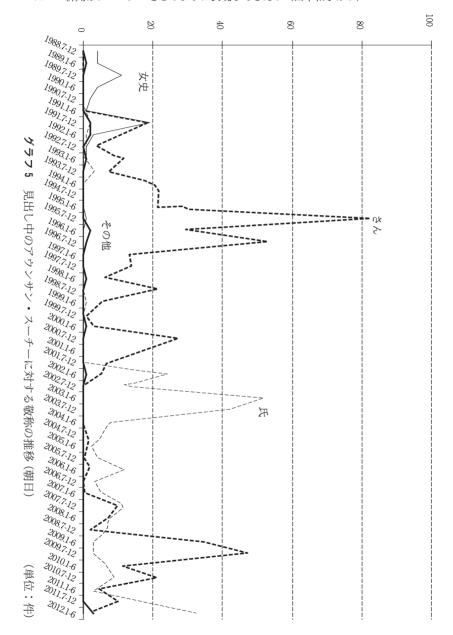
グ

件中一〇六件(七三・一%)と、四分の三を占めるに至った。

(6) からは、「女史」という語がいつまで使用されていたか、「さん」がいつまで使用され、「氏」がいつごろからどれ ここで、スーチーに対する呼称の使われ方とその推移の各紙ごとの特徴をみておこう。 アウンサン・スーチーに付された敬称に関する各紙ごとの動きと特徴 表3およびグラフ5~7

以後見出しには全く使われなくなっている。それとは対照的に、「さん」は、九五年下期に八三件と、 ようになった。その後「女史」は数を減らし、九三年上期には皆無となり、九五年下期に一回再登場したものの、 くらい使われ出したか、各紙の特徴が浮かび上がってくる。 年下期には「さん」が初めて登場し、「女史」と同数の一九件(九一年下期の朝日全体の四五・二%) まず朝日は、グラフ5にみるように、当初「女史」の見出しがほとんどであったが、ノーベル賞を取った一九九 使用 件数

れに対して、「氏」という敬称がスーチーの見出しにつけられることは、表3の数値の推移をみても明らかなとお ピークを迎えつつ、増減しながらも、二○○一年下期までは、ほぼ一○○%近くの独占的な敬称となってい 八〇年代九〇年代を通じてゼロ件から三件で、ほとんどなかった。すなわち、 女性にのみ付される敬称として た。



の「女史」

が、

「氏」がスーチーに対して用いられる敬称の主流となるのは、 敬称である「さん」に置き換わったのである。 男性の著名人に付されることの圧倒的に多い 氏 ○二年に入ってからのことである。 ではなく、 それとは異なっ 同年上 期 に 突

た、

より

國學院法學第50巻第3号 (2012) 然二五件出現するのを皮切りにして、○三年上期は五二件の見出し中五二件、 トに使われる時期が続く。これは、 見出しの敬称は 「氏」となった。以後も、 朝日新聞 記事数は少ないながら、〇八年下期のあたりまで、 が、 ジェンダーの視点を持って記事表現を行うことを、 同下期は四二件中四二 氏 一件と、 がコンスタン 紙面上で 全ての

言』したことと無関係ではなさそうである。

反映したのが、 たことを大きく記事化している。 事表現、 の視点で」との見出しを掲げ、 て、委員が批判的な議論を行っている。さらに、 委員会」の定例会について詳細に報じている。 二〇〇二年二月一〇日づけの朝日は、 死亡記事における男性は 内数扱いする書き方、 スーチーにおける「氏」使用へのシフトではなかったかと考えられる。 死亡記事の敬称を女男とも「さん」に統一するなど、社内「取り決め集」 女性の姓ではなく名を出す見出し表現、「家内」など対称語のない 朝日のこうした内外へのジェンダー表現への取り組みの姿勢の表明が、 「氏」女性は「さん」の敬称の使い分け、 『性差』 そこでは、ジェンダー・ステレオタイプにもとづいたイラストや記 敏感な議論を」と題して、委嘱した社外委員による「報道と人権 新聞週間期間中の一〇月一三日の紙面では、 統計表記などで女性を「(うち女性 「紙面をジェンダ 語などにつ を改 紙 面

まった。 上期からは再び その後、 表3のデータをみると、 氏 「さん」が の敬称が見出しに使われる期間は二〇〇八年まで続いたが、グラフ5に明らかなように、 ″復活〟し、一一年上期まで「さん」 〇九年上期は全三六件中三件、 が「氏」を上回る 同下期は全五〇件中三件と、「氏」 ″逆転現象″ の時期に戻ってし の割合が極端

候補を表明する頃から

氏

0)

使用

が

再びみら

れるようになる。

そして実際に立候補

して当選した一一

上期には、 補選に立

三八件中三三件と、

九割近くが

「氏」という敬称の付された見出し構成となってい

に減 つ 7 る。 どうやら月日 たらし 61 ジ が 経 工 つにつれ、 内外に "宣言; た ジ エ ンダーの 視点 5 41 よう常に点検し、 ての 社内的 誦

稀薄化してしまっ を喚起しておく必要があるとい かしながら、二〇一一年下期、 う ンダーの 教訓, 前 の (5) 節 を、 視点をもった取材や表現については、 に この おける三 事態は示 紙合計の分析でふれたように、 しているとい えな いだろうか。 後退しない スー チ 1 が 国会議 員 選 举

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか) 使わ ○件を最多に、 次に は n 7 毎 漸次増えてゆき、 日は、 4 な 61 グラフ6に示したように、 九二年上期まで使われていた。 また朝 H 九五年下期に九二件と最多を数えるようになる。 と同じ九一年に、「女史」と入れ替わるように 当初 しかし、九三年上期に二件登場して以降は、 「女史」だけが使用され、 ノ 1 それ以後、「さん」 さん」 ~ ル賞受賞時 が 初 めて登場 現 0) は 在に至るまで一 増 九 九 減を繰り それ以 年下 返 来 期 度 0)

であ Ė Ź Ė 1の場合、 期 K 以降も 五. 女性に対して「氏」という敬 同 氏 2年下 期に は ほ ぼ 一件みら 毎 年一 件使 n たが、 b 称が見出 n その後 てい る しで用いられるようになるのは、 は二 0 み 件 で、 程度で推 量 的増 移し 加 0 たのち、 傾 向は全く示して 〇六年上 九三年 期 41 0) に六件登場 な 件 が わず か ただ

がら、

九九〇年代、二〇〇〇年代を通じて、

見出しにおける敬称の主流として長らく

使わ

'n

続

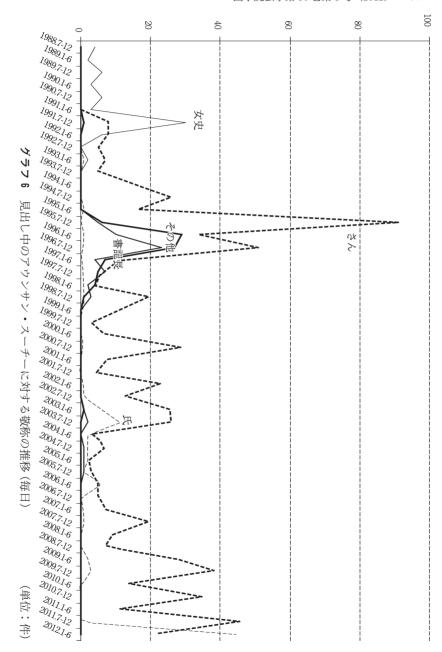
け

てき

z

その 8 毎 日 他 0 書記長」 0) 哑 称 が という役職 0) 使 特徴 わ れてい は 名が、 九 るの 五. 年 が スー 目立つが、 期 から チ ĺ 九 八年下期 の敬称として多用されてい これ は に至るまでの 同 紙に ピ ル 朔 7 間 か ることである。 らの手 ス 1 チ 紙 が および 玉 民 さら 民 「新ビ R 盟 ほ ル ぼ \widehat{N} 7 か 日 5 期 0 間 丰 で 12

けであ



紙 載されていたことによる。 という長期連載記事が掲載されて、 表3のデータからわかるように、「さん」のつく見出しが全体の四~九割を占めつつ、 そのタイトルに毎回 「アウンサンスーチー」という「敬称なし」の名が記 しか

補選に立候補し、 次に多い このように 最後に読売は、 全六六件のうちの四六件、 肩書きによる見出しづけも、 のが、 毎日の場合、 「氏」ではなく、「敬称なし」 当選した時期にあたる見出し群に、 グラフ7に掲げたように、一九八八年下期の初出で一四件中一一件が 「氏」という敬称はほとんど使われてこなかったわけだが、 七割を占めるところとなり、「さん」を上回った。 その後定着はしていない か 「書記長」と書かれた見出しであるという期間 それまではほとんどみられなかった「氏」 「女史」という敬称 二年 が数年続い が突如大量 Ė 期 ス を使 チ 出 1

が

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか) どみられなくなった朝日 での 全体の八割弱だったのに対し、 ており、 さらに、 比較的長い期間 他紙と同様、 八九年上期を除いて八九年下期以降もコンスタントに「女史」の見出しがみられるのが 読売の場合、 九一年下期に最多となったが、このときは「女史」の使用が、 だわたって、しばしば二桁台にわたる「女史」 九三年下期から「女史」が皆無となった毎日や、 (九五年下期に一件のみ) 読売は、 四〇件のうち三九件と、 0) 両紙とは異なり、 ほぼ一 の見出しが使われていた。 表3から確認できるように、 ○割近くを占めてい 同じく九三年下期から「女史」 朝日では全体の半分弱 た 大きな特徴であ 九五年下期 毎日では ほ

75 見出しに に遅れはしたが自紙も七年前に使うのをやめた「女史」という敬称を、 六日に、「ミャンマー ″復活″ させること自体、 スー・チー女史の解放が先決だ」という見出しの社説が アナクロニズムというべきであろうが、 新聞 社説本文をみても、 の公的な 掲載されたためである。 // 顔/ であるとされる社 「スー・チー女史

は使われなくなったが、表3にみられるように、二〇〇三年上期に一

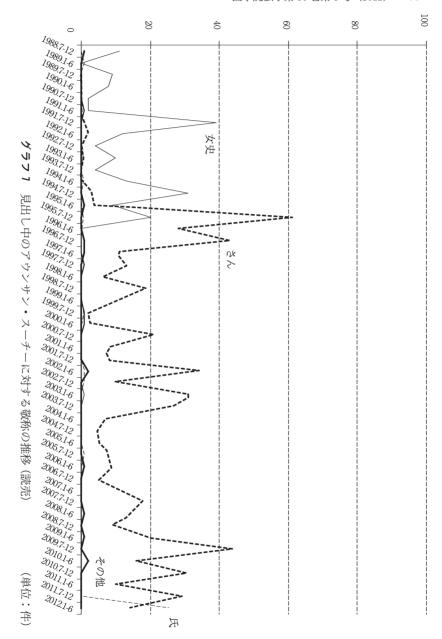
件再登場する。

これ

は、

六

の後



七カ所、 また、 単 一独の 女史」 が七カ所で使われてい た。 読売もこの時期には 「さん」 という敬 称使 用 が 常

五. が |年下期からは二〇件の「女史」に対して六二件の「さん」と逆転し、 ている中、 読売で「さん」 内部的 が ガチェ 目立つようになるのは九四年下期からで、 ッ クは働かなかっ たのだろうか この時期はまだ「女史」 九六年上期に「女史」 の数が・ 上回 が 皆無になっ たも 0) て以

九

びを打ったのは、 あったが、 方、スーチー グラフ7と表3からわかるように、「さん」づけの見出しがほとんどを占めるようになってゆく。 〇六年上期 やはり一二年の国政の補選で、 「氏」については、読売では、 から一一 年下期までの長きにわたり、「氏」のつく見出しは皆無であった。 それまでみられなかったスーチーに対する「氏」 当初からほとんど使用されておらず、数年に一件みら の敬称が、 そ 0 傾 ñ 向 いる程 にくさ 度で

年上期には二七件 ただし、この当選報道にあたって、「氏」を見出しに使い出した時期を各紙で細かくみてみると、 こへとは ね上が った。 これは、 全四一件のうち、 七割弱に相当する。 朝 首

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか ミャンマー 目」と、「さん」づけであった。 掲げてい 二年四月一 たのに対し、 -補選 日に行われ 野党圧 読売だけ [勝の勢い」「ミャンマー: たビルマ国政補選の結果が報じられた二日付朝刊一 は 読売の見出しで初めて「氏」がスーチー 面見出しが 「スー・ 補選、 チーさん圧 N L D 『40人当選』スーチー氏、 勝 N L D につけられて登場するの 面で、 集計 ミャンマ それぞれ、「ス 勝利宣言」] ·補選 ーチー は 民主化 その後 と見出 へ の が

四

77 おり、 以 へと変化し、 一をまとめると、 また朝日では一 全体的には 時期 各紙で「女史」という敬称が 氏 「さん」づけが定着していった。 が使われたものの、 化石化, 完全には定着しなかった。 読売は比較的後年まで「女史」 して行っ たのとほ 三紙における「女史」 ぼ比例する形で、 の見出しを使用 ス からの、 チ

月一一日になってからのことである。

78 語っていよう。 「氏」ではない「さん」への移行は、「女と男は分けて呼ぶのが当然」という自明性への気づきがなかったことを物

新聞も「さん」に替えて「氏」を使い出した。このことは、 ところが、すでにみたように、二〇一二年にスーチーが連邦議員の補欠選挙に立候補して当選すると、 スーチーが在野の民権活動家から国会議員になり、

急にどの

出馬することを報じる記事では見出しに「氏」が用いられていたのだが、本文では一貫して「さん」がつけられて 用されることがある。たとえば、二〇一一年一一月一九日の朝日朝刊における、 治家としての「格」が上がったといった理由によるのだろうか。 なお、最後に付言しておくと、アウンサン・スーチー関連の記事においては、 翌年の国政補欠選挙にスーチーが 見出しと本文とで異なる敬称が使

4 ーベル平和賞受賞者への敬称使用にあらわれたダブルスタンダード て論を進めた。

けた印象の「さん」をつける揺れがあること自体、

いた。同じ記事であっても、

記事の

「顔」である見出しには公的な印象の「氏」の敬称をつけ、記事本文にはくだ

興味深い現象であるが、今回は見出しにおける敬称使用に限っ

(1) 一九九一年以降にノーベル平和賞を受賞した女性と男性

ーチーに対する敬称の用いられ方とその変遷からみてきた。 これまでは、 新聞における女性への扱いがどのようなものであるのかを、 日本でも知名度の高いアウンサン・ス

本章では、 スーチーだけでなく、政治の分野で活躍する女性、 民主化や環境問題など社会運動の現場で活躍する

たが

って経年的

な変化も観察しや

すい、

ノ 1

ベ

ル平

和賞

気につい

てみてい

・きたい

学問 |や科学技術 の分野で功績を挙げた女性、 芸術や文芸の分野で優れた作品を創造した女性など、 扱い が、 男性へのそれと同等のも のであるかどうかを、 メディア

賞 事を系統的 に取り上げられることの多い著名な女性に対する新聞の ここでも、 × 、 ル 平 平和賞と六部門あるノーベ -和賞受賞とい 的に集め、 新聞記事データベースを用いて、 敬称のつけられ方について集計を行う。 .う同じ栄誉に浴した女性と男性に付され ル賞全体では記事の数が膨大となるため、 ノーベル賞受賞者が取り上げられてい 物理学賞、 た敬称の 異同 医学•生 受賞者の中の女性の比率 から比較してみ 理学賞、 る朝日 化学賞、 た 毎日 文学賞、 が最も高く、 読売 紙 0) 記

男性 ウンサン・ 調査 の受賞者が多くバランスに欠け、 蓢 簡 スー は 当初、 チーが受賞した一九九一 本研究会が調査を開始した一 ま 年以降から二〇一一年までの二一年間にしぼり、 た 検索件数が膨大な 九八五年 ・から現在までを目途としたが、 数に のぼ ることが 判明し た。 かつ毎年 そのたい 女性の受賞者に比 シー め ベ ル 平 査年 をア して

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか) より 平和 が発表される 長期 賞発表時 間累積され からその年 〇月 の発表時よりその年 てしまい、 の年末までに限ったのは、 各人を同等に比較することができない の一二月三一日までを調査 そうしないと受賞年が早い人ほど、 0 かか 期 こらで 間 とし あ た。 デー -タベ 年 1 までの報道デ ス検索を、 1 ·和賞 タ ベ

ン は Î C B L) 表 表5の下に注として記したように、 のような個人と一緒に受賞した団 国 体 [境なき医師団」 が、 合計 七件含ま のような組 れてい 祉織、 たが、 ま ここでは個人の受賞者に付さ た 地 雷禁 Ŀ 玉 際 キャ ンペ

n た敬称をみるのが 目的であるので、 これらの 団体は分析対象から除

た

79

を担う社会運

動

家

平

和

に貢献した大統領、

首

植

大臣、

議

長などが目立

つ。

この

間

0)

1

]

ベ

ル

和

賞 民

一受賞

12

の結果、

表

4と表5に示したように、

対象となる女性は八名、

男性は一九名となった。

権

活 平 動や

主

化

:4 ノーベル平和賞受賞者のプロフィール(女性)

受賞年	名前	H	職業(受賞時)	型 資 母
1991	アウンサン・スーチー	ビルマ	社会運動家・前全国民主	民主化のための非暴力の闘い
			連盟(NLD)書記長	
1992	1992 リゴベルタ・メンチュ	グアテマラ	農民統一委員会(CUC)	先住民族の文化の擁護と地位向上に貢献
			活動家	
1997	ジョディ・ウィリアムズ	* III	NGO「地雷防止国際キ	NGO「地雷防止国際キ 地雷防止条約の国際キャンペーン(ICBL)の功績
			ャンペーン(ICBL)」代	
			隶	
2003	シリン・エバディ	イラン	弁護士・人権活動家	民主主義および女性と子どもの人権擁護に貢献
2004	ワンガリ・マータイ	ケニア	ケニア環境副大臣	人権や女性の権利を尊重した環境保護の活動
2011	エレン・サーリーフ	リベリア	リベリア大統領	女性が平和や民主化に大きな力を発揮することに貢献
	リーマ・ボウイー	リベリア	平和活動家・WIPSEN - 女性が平和や民主化に大きな力を発揮することに貢献 A trice 事業目長	女性が平和や民主化にフ
	タロックル・セルレン	ム + × ′ ′	人権任事後・ジェーキリ ケ性が以近め日土ケアナミな古を発揮するアファ音車 77711174 1970年 1970年	- ゴルギ田やほががサイ
			スァ	

表5 ノーベル平和賞受賞者のプロフィール (男性)

		1994			1993	受賞年
シモン・ペレス		1994 ヤセル・アラファト		ネルソン・マンデラ	1993 ウィレム・デクラーク	名前
イスラエル		パレスチナ		南アフリカ	南アフリカ	H
イスラエル外相	(PLO)議長	パレスチナ解放機構	(ANC)議長	アフリカ民族会議	南アフリカ大統領	職業(受賞時)
オスロ合意など中東との和平を進めた		イスラエルとの対話により中東の和平を進めた		アパルトヘイトを終結させ民主的南アの基礎を築いた	アパルトヘイト政策を廃止	受貨理由

	イツハク・ラビン	イスラエル	イスラエル首相	オスロ合意など中東との和平を進めた
1995	ジョセフ・ロートブラット	ポーランド	パグウォッシュ会議会長	核兵器削減に貢献
		(英国)		
1996	カルロス・(フィリペ・	東ティモール	司教	東ティモールの紛争の平和的解決に尽力
	シメネス) ベロ			
	ラモス・ホルタ	東ティモール	東ティモール民族抵抗評	東ティモールの紛争の平和的解決に尽力
			議会代表	
1998	ジョン・ヒューム	北アイルランド	社会民主労働党(SDLP)	社会民主労働党(SDLP) 北アイルランドの和平に貢献
			党首	
	デビッド・トリンブル	北アイルランド	北アイルランド自治政府	北アイルランド 北アイルランド自治政府 北アイルランドの和平に貢献
			首相	
2000	金大中	韓国	韓国大統領	太陽政策と南北首脳会談など朝鮮半島の和平に尽力
2001	コフィー・アナン	ガーナ	国連事務総長	国連事務総長として卓越した功績を残した
2002	ジミー・カーター	米国	元アメリカ合衆国大統領	退任後に国際紛争解決への努力と民主主義と人権を拡
				大
2005	モハメド・エルバラダイ エジプト	エジプト	国際原子力機関(IAEA)	原子力エネルギーの平和利用に貢献
			事務局長	
2006	とメエ・メタハム	バングラディシュ	グラミン銀行総裁	貧困層の経済的・社会的基盤を築いた
2007	アル・ゴア	米国	前アメリカ合衆国副大統領	地球温暖化問題を知らしめ処置の基盤を築く努力
2008	マルティ・アハティサーリ	フィンランド	元フィンランド大統領	アチェ合意など世界各地の紛争解決に尽力
2009	バラク・オバマ	米国	アメリカ合衆国大統領	国際的外交と民族間強力のための努力
2010	松期 陽	Ī		

ヌスとともにグラミン銀行が、2007年にはゴアとともに気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が、それぞれ組織として受賞している。 は国境なき医師団 (MSF)が、2001年にはアナンとともに国際連合が、2005年にはエルバラグイとともに国際原子力機関 (IAEA)が、2006年にはユ

82 に付された敬称を出力し、 前」と「ノーベル」という語の両方が記事中に含まれるという検索条件で、記事中 調査対象とする女性と男性の受賞者を決定した上で、朝日・ カウントした。ここでの単位は、これまでのように、見出し件数でも、 毎日・読売の各データベースを用い、 (見出しを含む) また記事件数で 受賞者の の名前とそれ

國學院法學第50巻第3号 (2012) 賞とは無関係の記事がノイズとして入ってくるためである。また、受賞者の名前には、 「エバディ」のように表記の 「ノーベル」を検索条件に加えたのは、受賞者の名前だけで検索すると件数が非常に多くなり、 「揺れ」があるため、検索条件には異表記も網羅した。 たとえば「エバーディ」と また、 ノーベ ル

もなく、「登場した名前+敬称」の数、つまり「延べ語数」である。

ンを用いて分類することにした。 ⑧名のみ、⑨姓名+肩書き (職業や所属など)、⑩姓+肩書き、⑪姓名+女史、⑫姓+女史、 組み合わせとして、①姓名+氏、②姓+氏、③姓名+さん、④姓+さん、⑤名+さん、 検索の結果、 敬称のつけ方にある種のパターンがみられることがわかったので、それらを整理し、 男性の受賞者の場合には、 女性にみられた⑧「名のみ」と⑪ ⑥姓名のみ、 の一二通りのパター 「姓名+女史」 姓名と敬 ⑦ 姓 0)

(12)

「姓+女史」にあたる呼び方が一件もみられなかったため、

実際には、

①から⑦および⑨⑩の九通りのパターン

となった。

(2) まず、 一九九〇年代における女性の平和賞受賞者 九九一年に受賞したアンウンサン・スーチーについて、三紙ごとの敬称のパターンとその登場件数を示 アウンサン・スーチー、 メンチュ、

ウィリアムズ

したのが、 表6である。 日

既にふれたように、ビルマ人の名前は 姓 がないため、 「アンウンサンスーチー」全体が「名」 であるが、

%

が「さん」の扱いであった。

それに対し、「氏」は合計四件

(一・一%) にとどまっている。

スーチーの呼び方 (延べ語数)

(単位:件)

1991年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計 計
アウンサン・スーチー氏	2			2	4	1.1%
スーチー氏	2			2	4	1.1/0
アウンサン・スーチーさん	16	12	1	29	106	28.6%
スーチーさん	35	31	11	77	100	20.0/0
アウンサン・スーチー	2	4		6	15	4 10/
スーチー	2	3	4	9	15	4.1%
アウンサン・スーチー+肩書き	1			1	2	0.5%
スーチー+肩書き	1			1		0.5/0
アウンサン・スーチー女史	13	25	39	77	243	65.7%
スーチー女史	24	53	89	166	243	00.7/0
合 計	98	128	144	370	370	100.0%

ウン・サン」は「アウンサン」として、また「スー・チー」という

スー・チー」などと記載の方法に、揺れ、が生じていたので、「ア

サン・スー・チー」や「アウンサン・スーチー」、「アウン・サン・

ーチーさん」二九件(七・八%)で、合わせて一○六件(二八 のが、「スーチーさん」七七件(二〇・八%)と「アウンサン・ス うちの二回に、「女史」と記述されている計算である。 が合計二四三件(六五・七%)を占めた。スーチーが三回出てくる ン・スーチー女史」が七七件(二〇・八%)と、「女史」のつく語 そのうち「スーチー女史」が一六六件 表記も「スーチー」として、統一して扱った。 その結果、三紙合計で三七〇件のスーチー関連の敬称がみら (四四・九%)、「アウンサ

次いで多い

チー」および「スーチー」を用いる。 している。本稿でも毎日の扱いにほぼ準じて、「アウンサン・スー(タ) を正式の表記とするが、「スーチー」という略記も用いる旨を告知 いる。 本のメディアでは略称の 一九九六年七月一 日の毎日新聞は、 「スーチー」 がかなり一 なお、新聞によって「アウン 「アウンサンスーチー」 般的に用 61 5

%)、「アウンサン・スーチー女史」が三九件(二七・一%)、両方を合わせると一二八件(八八・九%)と、「女 史」の占める割合が約九割に達している。 また、毎日では全一二八件中「スーチー女史」五三件(毎日合計の四

次に新聞による違いをみてみると、読売では、「スーチー女史」が全一四四件中八九件

(読売合計の六一・八

國學院法學第50巻第3号 (2012) 頻度がかなり少なくなっている。朝日の場合はそれに代わって、「スーチーさん」が三五件(三五・七%)、「アウ チー女史」が一三件(一三・三%)で、「女史」は合計三七件(三七・八%)と、他の二紙に比べ、「女史」の使用 ンサン・スーチーさん」が一六件(一六・三%)、両方合わせて五一件(五二・○%)と、「さん」がよく用 ○・九%)が、「女史」扱いである。 一・四%)、「アウンサン・スーチー女史」二五件(一九・五%)と、読売ほどではないものの、両方で七六件 一方、朝日では、登場件数全九八件中「スーチー女史」が二四件(朝日合計の二四・五%)、「アウンサン・スー

を、これほどまで多用していた事実には驚かされる。 「NLD書記長」と、「肩書き」をつけたものが二件みられたのも特徴的である。 それにしてもこの時期、日本にも「フェミニズムの時代」が到来したとされていたにもかかわらず、「時代を一 (少なくとも半歩)」リードするとされる新聞が、 女性が偉業をなすことを特別視するニュアンスの強い「女史」

半数に達していた。また、朝日でのみスーチーのあとに「氏」をつけたものが四件、「全国民主連盟前書記長

員会 ンバーであった。本調査期間中に三紙合計で四八件登場しているが、表7にみるように、メンチュに対する呼び方 次に、一九九二年に受賞したリゴベルタ・メンチュは、グアテマラ軍事政権下の人権侵害に反対する農民統 (CUC)の活動家であり、受賞時には国連の「先住民族の権利に関する国際連合宣言」を作成する部会の

「メンチュさん」と姓に「さん」をつける形が二一件(四三・七%)で最も多く、それにほぼ近い頻度の姓名

は

表1 メンチュの呼び方(延べ語数)

1992年受賞	朝日	毎日	読売	小計	1	計
リゴベルタ・メンチュ氏					0	
メンチュ氏					0	
リゴベルタ・メンチュさん	4	9	7	20		
メンチュさん	5	6	10	21	41	85.4%
リゴベルタさん						
リゴベルタ・メンチュ	1	1		2		
メンチュ					4	8.3%
リゴベルタ		1	1	2		
リゴベルタ・メンチュ+肩書き					0	
メンチュ+肩書き					U	
リゴベルタ・メンチュ女史			1	1	3	6.3%
メンチュ女史			2	2	3	0.3%
合 計	10	17	21	48	48	100.0%

あった。

件もみられず、

職業・役職等の肩書きをつける呼び方も皆無で

よび名のみの ずか三件 ち八五・四%と、九割近くを占めるところとなっている。 に「さん」をつける形の「リゴベルタ・メンチュさん」二〇件 (四一・七%)と合わせると四一件の頻度となり、全呼称のう 一方、スーチーに多用されていた「女史」という敬称は、 (六・三%)を数えるに過ぎなかった。 「敬称なし」は四件(八・三%)で、「氏」は一 また、 姓名お

わ

女史」一件、「メンチュ女史」二件、

合計三件 (一四·二%)

みられた。その分を埋めているのが、「リゴベルタ・メンチュ

○・○%)、毎日では全一七件中一五件(八八・二%)と、

「メンチュさん」を合わせて「さん」が全一○件中九件

九

三紙別にみると、朝日では「リゴベルタ・メンチュさん」

ん」がおよそ九割を占めているが、読売で全二一件中一七件

(八一・○%) と、他二紙との間に比率にして約一

割の開

きが

いた「女史」が、 の「女史」である。 以上でみたように、 わずか一年後であるにもかか スーチーの受賞時には七割近く使

わらず、

激減し わ

n

ウィリアムズの呼び方 (延べ語数)

1997年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計
ジョディ・ウィリアムズ氏		4		4	5	7.7%
ウィリアムズ氏		1		1	3	1.170
ジョディ・ウィリアムズさん	16	8	15	39		
ウィリアムズさん	3	3	5	11	54	83.1%
ジョディさん	4			4		
ジョディ・ウィリアムズ			1	1		
ウィリアムズ					1	1.5%
ジョディ						! ! ! !
ジョディ・ウィリアムズ+肩書き		2	3	5	5	7.7%
ウィリアムズ+肩書き			3	5)	1.1/0
ジョディ・ウィリアムズ女史					0	
ウィリアムズ女史					0	
合 計	23	18	24	65	65	100.0%

ては、

表8に示したように、

調査期間中三紙合わせて六五件登

は られる、 面もあるのではないだろうか。 業界としての雰囲気づくりをある程度醸成していったという側 られた。 付けの「声」欄では、「品位と温かさを失わぬ呼称に」との 問題提起を行っている。 来的には「さん」に統一した方がいいかもしれない、 『女史』でいいの? たのには、 めたこうした問題提起は、 につながりかねず「むずがゆいものがあった」との投書が寄せ イトルで、 ん」の使い方を調査し、 しているが、そこでは、 NGOの「地雷禁止国際キャンペーン」で日本でもよく知 一九九一年一一 九九〇年代にノーベル平和賞を受賞した女性の三人目とし 九七年受賞の米国人、 朝日のメディア面のような、 読者から、「さん」では軽すぎ「女史」では性差別 それなりの 月七日付けのメディア面で、「スー・チー 性区別にはメリット」という記事を特集 理 また、 性別を示すのにメリットはあるが、 由 朝日も含めた各紙の「女史」と 他の新聞の参考にも供されながら、 があると思われる。 その記事を受けて一一 ジョディ・ウィリアムズについ 他紙の表現との比較も含 たとえば 月 といい 二四 った 朝 _ خ

将

H

日

夕

全体でみると、「ジョディ・ウィリアムズさん」と、姓名に「さん」をつけたものが最も多い三九件

場している。

ー、メンチュ、ウィリアムズらであるが、「女史」一辺倒から「さん」へ、そして「氏」が登場するに及んで、 おらず、以降、 表記が、ともに五件づつ(各七・七%)みられたのが特徴的である。一方、「女史」という敬称は一 体の八三・一%を占めた また、 ジョディ・ウィリアムズの場合、「氏」という敬称と、「ICBL代表」「代表」という「肩書き」による ノーベル平和賞受賞者の女性に「女史」は使われなくなった。いずれも社会運動家であるスーチ 度も使わ n

7

「さん」の敬称使用は朝日二三件 (一○○・○%)、毎日一一件 五%) みられた。これに姓に敬称がつく「ウィリアムズさん」、名に敬称がつく「ジョディさん」を合わせると、 ズさん」という記載が一番多く、 「ジョディさん」と、 〇年代もようやく終わりに近づいて、表現のされ方が少しずつ流動化してきていることが読み取 各紙ごとにみてみると、朝日二三件、毎日一八件、読売二四件の掲載件数中、三紙とも「ジョディ・ウィリアム 姓ではなく名に「さん」をつける呼び方をしていたのは朝日のみの四件(一七・四%)であ 朝日で一六件 (六九・六%)、毎日で八件 (六一・一%)、読売二〇件(八三・三%)となる。 (四四・四%)、読売で一五件

87 また、 毎日で「ジョディ・ウィリアムズ氏」が四件(二二・二%)、「ウィリアムズ氏」 他紙では「氏」の使用は一件もみられなかった。 が 一 件 (五・六%) と、

氏 の敬称が合計五件、 二七・八%みられたのが特徴的だが、

たあとは、

ったが、これらは全て同一の社説の中で用いられていたもので、

初出に「ジョディ・ウィリアムズさん」と呼ばれ

一貫して「ジョディさん」と表記されていた。

調査結果とも合致する。新聞は「女史」を「卒業」したものの、女性を、 "軽い"とされた「さん」がノーベル賞受賞者の女性の敬称として定着していた事実は、 けて投書欄に「さりとて『さん』では軽すぎる」という声を載せながら、 すでにみたように、新聞自体が、一九九一年に「女史」という敬称は一考した方がいいと問題提起し、 九○年代の終わりになると、結果として 男性の「氏」とは異なる「さん」で呼ぶ 前章のスーチーの見出し それに続

二〇〇〇年代前半における女性の平和賞受賞者

―エバ ディ、

マータイ

ことの矛盾に、この時点ではまだ気づいていない。

(3)

國學院法學第50巻第3号(2012) の名は、期間中一六七件みられ、日本における関心の高さがうかがえる。 ドしたため、 イラン革命で失職 二〇〇三年の受賞者であるイランの弁護士シリン・エバディは、ノーベル賞を授与された初めてのイラン人であ かつ初めてのムスリム(イスラム教徒)女性の受賞者とされている。裁判官だったエバディは、 何度か逮捕されたりもした。ノーベル平和賞は、そのような活動が評価されて与えられた。 (のちに弁護士となる)、厳格なイスラム法下での女性・子どもの地位や人権を守る運動をリー 一九七九年の エバディ

三%)と、「さん」が過半数を占めた。一方、これまでの女性の受賞者に比べ、エバディには「氏」がつけられ 「シリン・エバディさん」と姓名に「さん」をつけたものが二四件(一四・四%)みられ、合計で九四件

表りに掲げたように、三紙合計では「エバディさん」と、姓に「さん」をつけた呼称が七〇件

(回 一 •

わせると七一件 つけられる割合は、このシリン・エバディと、のちに出てくるエレン・サーリーフの四割台が最も高く、必ずしも ことも多く、「エバディ氏」五八件(三四・七%)、フルネームの「シリン・エバディ氏」一三件(七・八%)を合 (四二・五%) に達し、「さん」に迫る勢いであった。ちなみに、女性の受賞者に対して「氏」が

エバディの呼び方 (延べ語数)

2003年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計
シリン・エバディ氏		13		13	71	42.5%
エバディ氏	33	24	1	58	/1	42.0/0
シリン・エバディさん		9	15	24		
エバディさん	5	19	46	70	94	56.3%
シリンさん						
シリン・エバディ						
エバディ	1		1	2	2	1.2%
シリン						
シリン・エバディ+肩書き					0	
エバディ+肩書き					U	
シリン・エバディ女史					0	
エバディ女史					0	
合 計	39	65	63	167	167	100.0%

つけてこなかったという経緯がある。

バ

スーチー、メンチュ、ウィリアムズいずれに対しても「氏」を

(一・六%) のみと極端に少なかった。

読売は、

それまでも、

毎日がそれに続く六割弱だが、読売は 六・九%)の合計で三七件(五六・九%)と、 ディ氏」一三件(二〇・〇%)と「エバディ氏」二四件 定着したり、 「エバディ氏」が三三件(八四・六%)、毎日は「シリン 次に、新聞ごとの内訳をみると、「氏」に関しては、 増えたりしているわけではない。 「エバディ氏」一件 朝日が八割強で

朝日

は

工 =

ディさん」五件 (一二・八%)、毎日は六五件中 (一三・八%) の合計二八件 (四三・一%) であった。 ん」一九件(二九・二%)と「シリン・エバディさん」 「氏」が多い分「さん」が少なく、毎日は「さん」と「氏」で 次に「さん」づけについてみると、朝日は全三九件中「エ 「エバデ 朝日 九 1

は

ほとんどを「氏」よりも〝親しみやすい〟とされる「さん」が

さん」一五件(二三・八)の合計で六一件(九六・八%)と、 「エバディさん」四六件(七三・○%)と「シリン・エバディ 二分されたかっこうである。それに対して読売は全六三件中

マータイの呼び方 (延べ語数)

0004年或借	#II III	た ロ	=±:±±:	.t. ≓ t.		\
2004年受賞	朝日	毎日	読売	小計	î	計
ワンガリ・マータイ氏	4			4	18	26.5%
マータイ氏	14			14	10	20.5/0
ワンガリ・マータイさん	6	5	8	19		
マータイさん	3	13	13	29	48	70.6%
ワンガリさん						
ワンガリ・マータイ						
マータイ					0	! !
ワンガリ						! ! ! !
ワンガリ・マータイ+肩書き		2		2	2	2.9%
マータイ+肩書き						2.9%
ワンガリ・マータイ女史					0	
マータイ女史					0	
合 計	27	20	21	68	68	100.0%

が一九件 (二七・九%) と、合わせて四八件 (七〇・六%) が 年九月に死去している。 を展開し、 家であり、 来日し、そこで「モッタイナイ」ということばに出会い、 リ・マータイは、 占める状態が未だに続いている。 の二九件 づけが多かった点に特徴がある。 然資源・野生動物省の副大臣を務めた。 に広めたことで知られている。 毎日新聞はその後、 議員や副大臣、 ータイの名は、 .10に示した二〇〇四年のノーベル平和賞受賞者のワンガ (四二・七%)、姓と名の「ワンガリ・マータイさん」 彼女の名が紙面に数多く踊ることとなったが、一一 ナイロビ大学で初めて教授となった女性でもあっ ○五年の京都議定書発効記念行事に関連して 元大学教授という肩書きの割には「さん」 調査期間中、 紙面で「もったいないキャンペーン」 ケニアの国会議員で、 姓の「マータイさん」が最多 三紙合計で六八件みられ また、

環境保護の活動

環境·天

世界

で、「氏」の敬称は合計一八件(二六・五%) (二〇・六%)、「ワンガリ・マータイ氏」は四件 (五 「さん」づけであった。それに対して「マータイ氏」は一四件 にとどまってい 九%

る。「肩書き」記載は、 新聞は 「副環境大臣」二件というものであった。「氏」の敬称や肩書きによって大臣級であること *親しみやすさ、を醸し出そうとしたのだろうか。

一紙別に比較すると、 マータイに「氏」をつけていたのは朝日だけであり、 全二七件中 「マータイ氏」 四

きたか 件中一八件(九〇・〇%)、読売は二一件中全てを占めた。 や異なる傾向をみせている。 毎日であった。このように、 て、毎日と読売では「氏」の敬称はゼロであった。その分、 四・八%)、「ワンガリ・マータイ氏」一四件 それは、先述したように、 朝日は「さん」も使うが、「氏」をより多く使っているという点で、 (五一・九%) 朝日が〇二年二月に「『性差』 また、二件みられた「肩書き」つき表記は 毎日と読売は「さん」づけがほとんどで、 の合計一八件(六六・七%) 敏感な議論を」とい を占めていたのに対し 他の二 毎日は二〇 う記 とは ず 'n

新聞はジェンダーをどのように表現し に女性にも「氏」の敬称をつけようという機運にあったように見受けられる。 を女男ともに「さん」に統一することを表明した時期とも符合する。 でジェンダー表現に関する問題提起をし、同年一〇月に 「紙面をジェンダーの視点で」の記事で、 少なくともこの時期の朝日は、 死亡記事の 紙面で意識的

最後に、二〇一一年に同時受賞したアフリカの、 エレン・サーリーフ、リーマ・ボウイー、

サー

ij

Ż,

ボウイー、

カ ルマ

タワックル

(4)

二〇一〇年代における女性の平和賞受賞者

ンの三名は、 ○月八日)され、 「紛争解決や民主化に女性が大きな力を発揮できることを示した功績を評価」(朝日、二〇一一年、 ノーベル賞を手にすることとなった。

に亡命、 工 レン・サーリ 内戦終結後の二〇〇五年に大統領となり、 -フは、 内戦が長らく続いていたリベリアに 国家再建に大きく貢献した。 おい て、 一九八〇年代には 表11にみるように、 軍 事 政権に反発し 調査期 間

サーリーフの呼び方(延べ語数)

2011年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計
エレン・サーリーフ氏	4	2		6	76	46 20/
サーリーフ氏	35	18	17	70	10	46.3%
エレン・サーリーフさん	1	1		2		
サーリーフさん	12	1		13	15	9.1%
エレンさん						
エレン・サーリーフ		1		1		
サーリーフ	2			2	3	1.8%
エレン						
エレン・サーリーフ+肩書き	5	6	15	26	70	42.7%
サーリーフ+肩書き	16	13	15	44	10	42.1/0
エレン・サーリーフ女史					0	
サーリーフ女史					0	
合 計	75	42	47	164	164	100.0%

中最多であり、また「肩書き」の使用も、

現役の大統領という

歴代受賞者

大統領」四四件(二六・八%)の「肩書き」つきで、合計七○ ン・サーリーフ大統領」二六件(一五・九%)と「サーリーフ

(四二・七%) みられた。 「氏」の敬称使用は、

こともあってか、今までの受賞者の中で最も多かった。

数近くを占めた。また、「氏」に迫る頻度を示したのが「エレ 登場回数となった。 の六件(三・七%)を合わせて合計七六件(四六・三%)と半 ーフ氏」の七〇件 合計で一六四件登場し、 サーリーフへの敬称で最も多かったのは「氏」で、「サーリ (四二・七%)と「エレン・サーリーフ氏」 これまでのスーチー、 エ バディに次ぐ

が半数を超え、「サーリーフ氏」三五件 件と、登場数にややムラがある。 レン・サーリーフ氏」四件(五・三%)を合わせて「氏」が七 新聞別にみると、朝日で七五件、 (五一・九%) と、 過半数を占めた。それに次いだのは その中で朝日は「氏」の使用 読売で四七件、 (四六・六%) と「エ 毎日で四二

九件

と「エレン・サーリーフ大統領」五件

(六・七%)

が合わせて

肩書き」つきで、「サーリーフ大統領」一六件(二一・三%)

(田中和子ほか)

き」とで二分される形となった。

多かった。

次に、 毎日では、「サーリーフ氏」一八件 (四二・九%)と「エレン・サーリーフ氏」二件 (四・八%) とで、

「エレン・サーリーフ大統領」の六件 「氏」が合計二○件、四七・六%に達する一方、「肩書き」つきも「サーリーフ大統領」の一三件(三○・九%)と (一四・三%)を合わせて一九件 (四五・二%) にのぼり、「氏」と「肩

め、「肩書き」をつける傾向が、三紙中で最も強かった。 ン・サーリーフ大統領」「サーリーフ大統領」がともに一五件(各三一・九%)、合計三〇件(六三・八%)を占 これに対し、読売では、「氏」をつけた表現が 「サーリーフ氏」一七件 (三六・一%) だったのに対し、 「エレ

新聞はジェンダーをどのように表現し リーフの場合は、 統領」のように かしながら、 次節以降でノーベル平和賞受賞者の男性を考察する際にもふれるが、「オバマ大統領」「金大中大 同じ現職大統領であっても、「氏」で表記される度合いが高い。 男性の現役大統領が受賞する際には、 圧倒的に肩書きで記述されている。 それに比べると、

93 たことに対しての同等の受賞であるにもかかわらず、 こともあってか、 ように、全体では六○件みられたが、サーリーフの出現頻度の半分以下にとどまってい 終結をもたらし、 1時受賞したリーマ・ サーリーフに代表されてしまった観があるが、 女性の参政権を訴えて西アフリカ地域の女性の地位向上に努めた市民運動家である。 ボウイー (読売では「レイマ・ボウィ」と表記)は、 片や大統領、 政治家と市民とが両輪となって民主化を勝ち取 片や市民運動家であることが リベリアで平 . る。 和 同じリベリア人とい 運動 /格/ 元に従 表 12 の違いとみ にみる う

言及数の違いとなってあらわれているのかもしれない。

ま た

ボウイーの呼び方 (延べ語数)

(単位:件)

2011年受賞	朝日	毎日	読売	小計	<u>{</u>	計
リーマ・ボウイー氏	1	3		4	7	11.7%
ボウイー氏		2	1	3	· '	11.7/0
リーマ・ボウイーさん	10	5	9	24		
ボウイーさん	15	1	12	28	52	86.7%
リーマさん				0		
リーマ・ボウイー		1		1		
ボウイー					1	1.7%
リーマ						
リーマ・ボウイー+肩書き					0	
ボウイー+肩書き					0	
リーマ・ボウイー女史					0	
ボウイー女史					0	
合 計	26	12	22	60	60	100.0%

をつけた呼び方は、「ボウイー氏」と「リーマ・ボウイー氏」

フに関しては「氏」の扱いが半数近くを占めたのとは対照的で を合わせて計七件(一一・七%)にとどまっている。サーリー %)、「リーマ・ボウイーさん」二四件(四〇・〇%)と、「さ

次に敬称別にみると、「ボウイーさん」二八件(四六・七

ん」づけが合計五二件(八六・七%)にのぼった。一方、「氏」

無であった。 長という肩書きがあるが、そのような肩書きをつけた記事は皆 ある。また、ボウイーには、 の平和と安全ネットワーク(WIPSEN)アフリカ」の ガーナに本部を置くNGO

理

各紙別にみてみると、

朝日では全二六件中

「ボウイーさん」

妙に変わってくるようである。今回の場合は、見出しなどで 面 したような〝格〞、また発表時の「名前順」などによって、微 ーの扱いの少なさの原因になっていそうである。 ーリーフに代表させるケースが少なくなかったことも、 - サーリーフ大統領らに平和賞」のように、三人の受賞者をサ に顕現するというわけではない。日本での知名度や、右に記 複数者が同時受賞した場合、必ずしも名前が公平に紙 ボウイ

表13 カルマンの呼び方 (延べ語数)

五件

(五七・七%)、「リーマ・ボウイーさん」一〇件

=

ゥ

2011年受賞	朝日	毎日	読売	小計	1	計 計
タワックル・カルマン氏	1	8	1	10	23	27.1%
カルマン氏	2	11	1	13	20	21.1/0
タワックル・カルマンさん	8	5	15	28		
カルマンさん	17	4	12	33	61	71.8%
タワックルさん						
タワックル・カルマン		1		1		
カルマン					1	1.2%
タワックル						
タワックル・カルマン+肩書き					0	
カルマン+肩書き					0	
タワックル・カルマン女史					0	
カルマン女史					0	
合 計	28	29	28	85	85	100.0%

たりしている若い 家であるが、 は、長期独裁政権が続くイエメンのジャーナリストであり、 せて五件 であるものの、 八・五%)、合計二五件(九六・二%)が、 を通じて言論の自由や民主的権利を訴えたり、 られなかった。 れに対して毎日は、 両紙ともほとんどが「さん」という敬称で占められている。 イさん」 一二件 〔四〇・九%〕の合計二一件(九五・五%) 二〇一一年のもう一人の同時受賞者タワッ 他紙で最多の「ボウイーさん」は一件(八・三%)し (四一・七%)が「氏」の敬称つきである。 ジャーナリスト女性を組織化し、ラジオやネット 「リーマ・ボウイー氏」と「ボウイー氏」 (五四・五%)、「レイマ・ボウィさん」九件 人権活動家として評価された。 登場件数こそ三紙の中で最も少ない一二件 が「さん」づけで、 また読売は「ボ クル デモ活動を行 表 13 毎日 力 に掲げた ル

合わ

[の場 か

み

マ

作

カルマンの場合も、 「カルマンさん」三三件(三八・八%)、 多かった。

ように、

調

査期間中に八五件登場し、

ボウイーよりも扱い数が

氏」一〇件(一一・八%)の合計で二三件(二七・一%)みられた。彼女は、イエメンの最大野党に所属し、また 二○○五年にNGO「束縛のない女性のジャーナリスト(WJWC)」を立ち上げ、その代表を務めていたのだが、 かしながら、「氏」の扱いはボウイーよりも多く、「カルマン氏」一三件(一五・三%)と「タワックル・カルマン 「タワックル・カルマンさん」二八件(三二・九%)と、合計六一件(七一・八%)が「さん」づけであった。

國學院法學第50巻第3号(2012) やはり「肩書き」表記は皆無である。 七・九%)と「タワックル・カルマン氏」が八件(二七・六%)の合計一九件、六五・五%と、他の二紙にない高 称別の比率でみると、 各紙別にみると、 出現件数は、 ボウイーの場合と同じく、ここでも毎日が独自な傾向を示し、「カルマン氏」一一 朝日二八件、毎日二九件、読売二八件と、三紙ほぼ同数となっている。 しか

件

紙とも「さん」 カ・中東3女性に」の記事では、サーリーフに対しては一貫して「大統領」か「氏」の扱いであったが、ボウイ 一二件(四二・九%)と「タワックル・カルマンさん」一五件(五三・六%)の合計二七件(九六・五%)と、両 カルマン、 そして過去の受賞者として挙げられていたマータイについてはすべて「さん」となっており、 の敬称がほとんどを占めている。たとえば、三名の受賞を報じる読売一〇月八日の一 面 ーアフリ

%)と「タワックル・カルマンさん」八件(二八・六%)の合計二五件(八九・三%)、読売は「カルマンさん」

それに対して、朝日と読売では「さん」づけの件数と比率が高く、朝日は「カルマンさん」一七件

「氏」の使用比率となった。

向上が不可欠であるというノーベル賞委員会側のメッセージを体現したものといえよう。 の差』がみられる。また、 二〇一一年の三名の女性の受賞は、この年を中心とする「アラブの春」といわれる中東の民主化に、 見出しの「3女性」は、 もし男性だったら「3氏」と書かれていたかもしれない。 ただ、 平和運動に女性の 地位

かえって永続させてしまうおそれを胚胎していることを、

再確認しておく必要があるのではないだろうか

ダブルスタンダードを

メディアでの表現のみならず、こういった評価機関による「女性の能力」の過度な強調は、

(5) この節からは、 一九九〇年代前半における男性の平和賞受賞者 ノーベル平和賞を受賞した「スーチー後」の男性たち一九人の敬称についてみていこう。データ ――デクラーク、マンデラ、 アラファト、 ペレス、ラビン

に表現し が高かったためか、三紙合計で一〇一件みられたのに対し、デクラークは二四件にとどまっている。 ン・マンデラの二人が、ノーベル平和賞を受賞した。表14は、その敬称内訳である。マンデラの方が日本で知名度 を取り出した期間は、 ヘイトに反対して長い間投獄されていた、南アフリカ民族会議 南アフリカのアパルトへイトを終結させた当時の南ア大統領のウィレム・デクラークと、アパ 女性たちと同じく、一九九一年以降の受賞年の一〇月から一二月いっぱいまでである。 (ANC)議長で、のちに南ア大統領となるネ そのうちデク ル

ラークは、「デクラーク」に「大統領」 ラーク氏」「デクラーク氏」と、「氏」のつくものが合計七件(二九・一%)となった。また「さん」づけが二件 わずかながらみられた。 の「肩書き」がつくものが一四件(五八・三%)、次いで「ウィレム・デク

97 などの「肩書き」がつくスタイルが、合わせて五一件 方、マンデラに対しては、「ネルソン・マンデラ」または「マンデラ」に「アフリカ民族会議 (五〇・五%) みられ、「ネルソン・マンデラ」と「マンデ A N C

表14 デクラーク、マンデラの呼び方(延べ語数) (単位:件)

1993年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	3 計
ウィレム・デクラーク氏			1	1	7	29.2%
デクラーク氏	2	2	2	6	·	20.270
ウィレム・デクラークさん						1
デクラークさん					2	8.3%
ウィレムさん		2		2		
ウィレム・デクラーク					1	4.2%
デクラーク			1	1	1	4.2/0
ウィレム・デクラーク+肩書き					14	58.3%
デクラーク+肩書き	4	4	6	14	14	00.0/0
合 計	6	8	10	24	24	100.0%

1993年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計 計
ネルソン・マンデラ氏	1	1	1	3	41	40.6%
マンデラ氏	8	14	16	38	41	40.0%
ネルソン・マンデラさん						
マンデラさん					0	
ネルソンさん						
ネルソン・マンデラ			1	1	9	8.9%
マンデラ	1	2	5	8	9	
ネルソン・マンデラ+肩書き	3	1	7	11	51	50.5%
マンデラ+肩書き	9	18	13	40	51	50.5%
合 計	22	36	43	101	101	100.0%

パレスチナ解放機構(PLO)議長貢献により一九九四年に受賞した、表15は、中東に和平をもたらした

られない。

各紙ごとにみた場合、読売が四三件と最多の登場件数で、次いで毎日が三六件、朝日が少なく二二件と、 登場頻度にややばらつきが生じたが、三紙とも「肩書き」つきが一番が、三紙とも「肩書き」つきが一番 特徴があろう。 特徴があろう。 特徴があろう。

表15 アラファト、ペレス、ラビンの呼び方(延べ語数)(単位:件)

1994年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計
ヤセル・アラファト氏 アラファト氏	4	1	5	10	10	7.8%
ヤセル・アラファトさん アラファトさん ヤセルさん					0	
ヤセル・アラファト アラファト	2	2	3	7	7	5.5%
ヤセル・アラファト+肩書き アラファト+肩書き	29	40	42	111	111	86.7%
合 計	35	43	50	128	128	100.0%

1994年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	3 計
シモン・ペレス氏 ペレス氏	3	2	1 5	1 10	11	42.3%
シモン・ペレスさん ペレスさん シモンさん					0	
シモン・ペレス ペレス			3	3 3	6	23.1%
シモン・ペレス+肩書き ペレス+肩書き	2	1 1	5	1 8	9	34.6%
合 計	5	4	17	26	26	100.0%

1994年受賞	朝日	毎日	読売	小計	1	計
イツハク・ラビン氏					4	3.4%
ラビン氏	1	3		4	4	3.4/0
イツハク・ラビンさん						
ラビンさん					0	
イツハクさん						
イツハク・ラビン					7	5.9%
ラビン	3		4	7	'	3.3/0
イツハク・ラビン+肩書き					108	90.8%
ラビン+肩書き	31	42	35	108	100	90.8%
금 計	35	45	39	119	119	100.0%

のヤセル・アラファト、 アラファトとラビンは、 イスラエル外相のシモン・ペレス、イスラエル首相のイツハク・ラビンの三名の敬 新聞のみならずテレビや雑誌などメディア上でしばしば取り上げられ、 日本でも ペレ 知名 であ

國學院法學第50巻第3号(2012) は二六件であった。 度が高いことが影響してか、 (九○・八)%が「(イスラエル) そのうち、 アラファトは一一一件(八六・七) (四二・三%)、「(イスラエル)外相」の「肩書き」が合わせて九件(三四・六%)と二分された。 アラファトが三紙合計で一二八件、次いでラビンが一一九件に達した。 首相」と、両者とも「肩書き」つきが多数を占めた。一方、ペレスは、「氏」が % が 「パレスチナ解放機構 P L O 議長」、ラビンは 方 一〇八件

外相のペレ やイスラエルという国を率いる首相という面が強調された形だ。その分、三名同時受賞のもう一人の当時者である 九件中三五件(八九・七%) また、「ラビン首相」は、 中二九件(八二・九%)、 れず、両者とも圧倒的に「肩書き」で呼称されている点で共通している。「アラファト議長」は、 各紙ごとの違いをみると、登場数の違いは若干あるものの、アラファトとラビンは新聞別の違い レスが、 両者の間でかすんでしまった印象ではある。ペレスは、 朝日が三五件中三一件(八八・六%)、毎日が四五件中四二件 毎日で四三件中四〇件 (九三・〇%)、読売で五〇件中四二件 という高頻度・高比率となっている。 片や独立を求めて闘うアラブの最高指導者、 読売で、 敬称なしの扱 (八四・〇%) にのぼる。 (九三・三%)、 朝日で全三五 いいが、 がほとんどみら 六件

また、アラファトとラビンに関しては、姓名で紹介するフルネームの表記をおこなう新聞は皆無であった。

合わせて一一件

ことがほとんどで、 ノーベ ル平和賞受賞者の男性たちは、 同じノーベル平和賞受賞者でも、 これ以降も同様に、 「さん」が多く使われるものの、 「肩書き」つきか「氏」の敬称のどちらかで 敬称のつけ方にばらつきも 呼 ば

五

|・三%) とやや多い。

みられる女性とは、

大きく異なる傾向をみせている。

メネス・)ベロと、

東ティモール民族抵抗評議会代表のラモス・ホ

ルタ

(のちに東ティモール大統領)

の敬

称別出

(5) 一九九〇年代後半における男性の平和賞受賞者 九九五年に、 ロートブラット、 べ ㅁ ホルタ、 ヒューム、 リンブル

ŀ

表16には、 九六年に、 東ティモ ール 核軍縮のパグウォッシュ会議会長として貢献して受賞したジョセフ・ の紛争の平和解決に尽力した功績により受賞した、 司教のカル ロス・(フ 口 ートブラッ

てきたか のベロ 現頻度を掲げた まず、 は 各受賞者の出現頻度をみると、 知名度の高さを反映してか、合計一八三件、 パグウォッシュ会議の ホルタは合計六三件であった。 ロートブラットは三紙合計で九四件、

うに表現し 口 ートブラットについて、 (四四·六%) に二分され 敬称の内訳を全紙通しでみてみると、「肩書き」の合計四七件 た (五〇・〇%)

件中一〇件 と目立っている。一方、全四三件登場した読売は、「ロートブラット(パグウォッシュ会議) ただし、新聞ごとにやや異なっており、朝日で姓名に「氏」をつけた「ジョセフ・ロ (四一・七%)、毎日で姓に「氏」がついた「ロートブラット氏」が全二七件中一一 ートブラット氏_ 会長」「ジョセフ・ 回 四

の一一件を上回る数となっている。その一方で、朝日では、「肩書き」つきは五件 ·トブラット会長」といったように、合わせて二六件(六〇·五%) 「ロートブラット(パグウォッシュ会議)会長」などの 「肩書き」つきが一六件 の「肩書き」つきが目につい (二〇・八%) にとどまってい (五九・三%) みられ、「氏」 た。 また、

る。 新聞により 「肩書き」つきと「氏」 の順位は入れかわるものの、 総じて「肩書き」か「氏」のどちらかを使用

101

表16 ロートブラット、ベロ、ホルタの呼び方(延べ語数) (単位:件)

1995年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計 計
ジョセフ・ロートブラット氏	10		8	18	42	44 70/
ロートブラット氏	6	11	7	24	42	44.7%
ジョセフ・ロートブラットさん ロートブラットさん	3			3	3	3.2%
ジョセフさん						
ジョセフ・ロートブラット ロートブラット			2	2	2	2.1%
ジョセフ・ロートブラット+肩書き	3		10	13	47	50.0%
ロートブラット+肩書き	2	16	16	34	47	50.0%
合 計	24	27	43	94	94	100.0%

1000年至常	却口	毎日	3# ##	.1. ≅ .1.		<u></u>
1996年受賞	朝日	毎日	読売	小計	<u></u>	計
カルロス・(フィリペ・シメネス) ベロ氏 ベロ氏	3 1	1		4 1	5	2.7%
カルロス・ベロさん ベロさん カルロスさん					0	
カルロス・ベロ ベロ	4			4	4	2.2%
カルロス・(フィリペ・シメネス) ベロ+肩書き ベロ+肩書き	9 43	13 47	24 38	46 128	174	95.1%
合 計	60	61	62	183	183	100.0%

1996年受賞	朝日	毎日	読売	小計	 	計
ラモス・ホルタ氏	13	3	9	25	58	92.1%
ホルタ氏	13	9	11	33	50	92.1/0
ラモス・ホルタさん						
ホルタさん					0	
ラモスさん						
ラモス・ホルタ					0	
ホルタ					U	
ラモス・ホルタ+肩書き	1	2		3	5	7.9%
ホルタ+肩書き		2		2	Э	1.9%
合 計	27	16	20	63	63	100.0%

~つく 一カル ベロとホル ロス・ベ 夕の同時受賞者について全紙ベースでみてみると、ベロに関しては、「肩書き」として ロ司教」四六件(二五・一%)と「ベロ司教」一二八件(六九・九%)が合計で一七四件 「司教」

てきたか (田中和子ほか) 二五件 たものだった。 タに対して三紙合計五件 の敬称がつかずに「司教」の肩書きで、ホルタは肩書きがつかずに「氏」 (九五・一%) と、 (三九・七%)、「ホルタ氏」三三件(五二・四%)、合計で五八件(九二・一%)にのぼった。 両名ともに「さん」づけはまったくみられない。 圧倒的多数を占めた。それに対してホルタには「氏」のつく傾向が強く、「ラモス・ホルタ氏」 (七・九%)付せられた「肩書き」は、「(共同) の敬称で、それぞれ呼ばれている。 議長」や 「民族抵抗評議会代表」とい ベロは 氏 ホ

の三一〇件に次ぐ数である。 なお、「カルロ ス・ベロ」というフルネームの記載は、三紙合計で五〇件の頻度であっ たが、 後述する「金大中」

新聞はジェンダーをどのように表現し た。ホルタについては、 差はない。 られたものの、 表 17 ここで三紙を比較してみると、ベロに関しては、 党首ジョ は 九九八年に北アイルランドの いずれも少数であり、三紙とも「肩書き」つきがほとんどであるという点で違いはみられ ヒュームと、 毎日で「肩書き」つきが四件みられるが、各紙とも「氏」が大多数を占めており、 北アイルランド自治政府首相デビッド・トリンブルに対する敬称一 和平に貢献した功績により平和賞を授与された社会民主労働党 読売で「氏」 が皆無、 朝日で「敬称なし」の 「ベ 覧である。 口 が S D L 日 大きな なか 四 本に 件

103 はあまり馴染みがないということを反映してか、 独立をめぐり、 長年にわたって紛争が続いてきたアイルランドの問題は、 ヒュームは三紙合計で四一件、 きわめて深刻なものであるが、 トリンブルは二二件と、

やや地味

6

6

22

27.3%

22 100.0%

表17 ヒューム、トリンブルの呼び方(延べ語数) (単位:件)

衣口 しょーム、ドリンノルの呼び刀(延へ詰数) (単位・什)							
1998年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計	
ジョン・ヒューム氏	6	6	1	13	27	65.9%	
ヒューム氏	3	4	7	14	21	03.3/0	
ジョン・ヒュームさん							
ヒュームさん					0		
ジョンさん							
ジョン・ヒューム		1	2	3	4	9.8%	
ヒューム			1	1	4	3.070	
ジョン・ヒューム+肩書き	1	2	1	4	10	24.4%	
ヒューム+肩書き		2	4	6	10	24.4/0	
合 計	10	15	16	41	41	100.0%	
1998年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計	
デビッド・トリンブル氏					1.5	co 00/	
トリンブル氏	3	8	4	15	15	68.2%	
デビッド・トリンブルさん							
トリンブルさん					0		
デビッドさん							
デビッド・トリンブル					1	4.5%	
トリンブル			1	1	1	4.0/0	

デビッド・トリンブル+ 肩書き

合

計

トリンブル+肩書き

治政府) 称が全く使われていないことは、こ る。 な扱いであった。 こでも共通している。 であった。 アルスター統一党党首でもある)」 きの表記が六件(二七・三%)であ 傾向はトリンブルもほとんど同じ 会民主労働党)党首」である。 たものが、 ネームないし姓に「肩書き」が 表記がほぼ半々で、 (六八·二) (六五・九%) と最多であり、 ムないし姓の次に「氏」をつけ 姓に「氏」の敬称が合計一五件 肩書きは「(北アイルランド自 となっている。 首相」 両者ともに「さん」の呼 % 合計一〇件 (二四 ないし「党首(彼は 姓に「肩書き」つ E 合わせて二七件 ユ 肩書きは] ムは ジフル この 「(社 フル つ 四 ネ

3

11

3

3

8

ル氏」 つ てい 各紙別にみると、 の記載となっており、 た。 また、 毎日 三紙とも 読売とも 毎日は 「トリンブル氏」 「肩書き」つきが三件みられた。 一一件中八件 が多数であるが、 (七二・七%)、 もともと全三件と少ない朝日 読売は八件中四件 (五〇・〇%) Iがすべ が 7 トリ

(6) 二〇〇〇年代前半におけ る男性の平和賞受賞者 金大中、 ア ・ナン、 カ I ġ

ともに平和賞を受賞した国連事務総長コフィー・アナン、 として二〇〇〇年に受賞した大韓民国大統領の金大中と、 表18には、 朝鮮民主主義人民共和国 (北朝鮮) の金正日首相と南北会談を行い、 $\overline{\bigcirc}$ そして〇二年、 年 長年にわたる平 国際紛争解決に努力した功績で受賞した -和活動 朝鮮半島の緊張緩和 が評 価され、 に寄与した 国際連合と

元米国大統領ジミー・

力

ベータ

ĺ

の敬称内訳を掲げた。

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか) 五件 国 で受けた金大中の受賞は、 七〇年代より日本でも韓国の大統領候補として知られ、 見出しでの金大中への言及は、三紙合計で五○四件の多さに達した。そのうち、 大統領」二五〇件 (八〇・四%) が 「大統領」 (四九・六%)、 南北が対立している隣国 の肩書きとなった。 姓のみの 金 の平 一方、「氏」のつくものは、 (韓国) 和問題でもあり、 KCIAによって日本から拉致されて本国で死刑 大統領」一五五件 日本の安全保障とも (三〇・八%) 「金大中氏」 フルネー 五九 の ム か 0) か 合 件 わ 「金大中 わせて る。 そ 判 几 0) 決

各紙ごとの違いはあまりみられず、 毎日では全一 八八件中八 八件 いずれも「金大中大統領」 (四六・八%)、 読売では一六八件中八九件 が最多で、 朝日では全一 (五三・〇%) 四八件中 を占め、 -七三件 河 次い 九

で

%)、「金氏」

三九件

(七・七%) で、

合計九八件

(一九·四%)

みられ

た

105 金大統領 が >続き、 朝日四〇件 (三七・〇%)、 毎日六七件 (三五・六%)、 読売四八件 (三八·六%) どれ

表18 金大中、アナン、カーターの呼び方(延べ語数) (単位:件)

2000年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計
金大中氏金氏	16 19	18 14	25 6	59 39	98	19.4%
金大中さん 金さん 大中さん					0	
金大中金		1		1	1	0.2%
金大中+肩書き 金+肩書き	73 40	88 67	89 48	250 155	405	80.4%
合 計	148	188	168	504	504	100.0%

2001年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計 計
コフィー・アナン氏 アナン氏					0	
コフィー・アナンさん アナンさん コフィーさん			5	5	5	4.7%
コフィー・アナン アナン					0	
コフィー・アナン+肩書き アナン+肩書き	25	36	40	101	101	95.3%
合 計	25	36	45	106	106	100.0%

2002年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計 計
ジミー・カーター氏		6	3	9	70	44.3%
カーター氏	13	36	12	61	10	44.3/0
ジミー・カーターさん			2	2		1
カーターさん	3	4	1	8	10	6.3%
ジミーさん						1
ジミー・カーター					0	
カーター					0	! ! !
ジミー・カーター+肩書き	4	4	6	14	78	49.4%
カーター+肩書き	16	29	19	64	/8	43.4/0
合 計	36	79	43	158	158	100.0%

され

た

Ł _ 肩 「金大中氏」と姓名で記載することの多い他二紙とは少し違ってい 「書き」つきの呼び方が定型表現となってい る。 ただ「氏」に関しては、 る 朝 日で姓 0 み 0 金氏」 が B Ŕ

が五 調査期間中に一○六件登場している。そのほとんどを占める一○一件(九五・三%)は、「アナン 金大中同様メディア上で見聞きすることの多かった、ガーナ人の国連事務総長アナンは、 荏 という聞き慣れ、 (四・七%) みられたのみである。 かつ読 【み慣れた肩書きつきのものであった。 また、 すべての形を通して、 一方、「氏」 なぜかコフィー・アナンとフルネーム の敬称は一 件もなく、「さん」 受賞した二〇〇 (国連) 事 づ 務 年 が

られ 新聞 たほ たものは皆無であっ 別 かは、 には、 読売、 すべて姓のみの 毎日、 朝日の順で登場頻度が減るが、「アナンさん」が読売で五件 「アナン」に 「肩書き」つきのものであった。 (読売の一一・一%)

み

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか それ 件みら に姓名に肩書きのつく「ジミー・カーター元 九七七年から八一年まで米大統領の職にあり、〇二年にノーベル平和賞を受賞したカーターは、 ń うち最多は、 姓のみの 「カーター」に「元 (米国) (米国) 大統領」一四件 (八・九%) 大統領」 がつくもので、 を合わせると、「肩書き」 六四件 (四〇・五%)、

つきが全体の半数の七八件 件 四•三% (三八·六%)、 が 氏 姓名の「ジミー・カーター」に「氏」がつけられる表記が九件 の敬称つきで扱われていた。また、「さん」という敬称が、 (四 九· 四%)を占めている。 一方で、 姓の「カーター」に ジミー・ 「氏」がつけられる表記が (五・七%) と、 カーターさん」

下の三六件となっている。 新聞別には、 登場件数にややむらがあり、 朝日は 氏 が一三件 毎日が七九件で最も多く、 (三六・一%)に対し、「肩書き」つきが二〇件 次いで読売が 四 件 朝日 五五五 が 毎 H の半分以

107

「カーターさん」合わせて一〇件(六・三%)と、

わずかながらみられた。

と読売では

「肩書き」つきが「氏」を上回っている。

四・八%) に対し 毎日は「氏」 が が四〇件 「肩書き」つきは二五件 (五〇・六%)に対し「肩書き」つきが三三件 (五八・一%)となった。 相対的に、 (四一・八%)、 毎日で「氏」 読売は の使用が多く、 氏 が 五. 件

(

(7) 二〇〇〇年代後半における男性の平和賞受賞者

ルバラダイ、ユヌス、ゴア、アハティサーリ、

オバマ、

劉暁波

賞の、 トの 副大統領アル・ゴアの、 したとされるエジプト人のモハメド・エルバラダイ、 表 19 √制度を普及させて○六年に受賞したグラミン銀行総裁のバングラディシュ人、 ば、 地球温暖化問題を著書などで世界中に知らせ、その防止に必要な措置の基盤を築いたことで評価された元米 二〇〇五年受賞者の、 それぞれの敬称である。 国際原子力機関 エルバラダイは一一一件、 I A E A 貧困層を対象にした低金利・無担保融資のマイクロクレ 事務局長として原子力エネル ユヌスは九九件、ゴアは二一〇件 ムハマド・ユヌス、○七年 ギーの 平和 利用 だ貢献 ジッ

かった。 五件 AEAとともに受賞したエ (五八・六%)と姓に「氏」 ルバラダイは、三紙合計で、 の四六件 (四一・四%) に二分されたのみで、 姓に「(IAEA) ほかの呼び方はまったくみられ 事務局長」 0) 一層 書き」 つきの六

れた。

つきの「エルバラダイ氏」は朝日で一八件 日全四〇件中二七件 各紙とも傾向にそれほど大きな差はなく、「エルバラダイ事務局長」 (六七・五%)、 読売全三二件中一七件 (四六・二%)、毎日で一三件 (三二・五%)、 (五三·一%) が朝日全三九件中二一 と「肩書き」 つきが半数を超え、「氏」 読売で一五件 件 (五三・八%)、 (四六・九

109 新聞はジェンダーをどのように表現してきたか(田中和子ほか)

表19 エルバラダイ、ユヌス、ゴアの呼び方(延べ語数)(単位:件)

2005年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計
モハメド・エルバラダイ氏 エルバラダイ氏	18	13	15	46	46	41.4%
モハメド・エルバラダイさん エルバラダイさん モハメドさん					0	
モハメド・エルバラダイ エルバラダイ					0	
モハメド・エルバラダイ+肩書き エルバラダイ+肩書き	21	27	17	65	65	58.6%
合 計	39	40	32	111	111	100.0%

2006年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計
ムハマド・ユヌス氏 ユヌス氏	2 14	8 13	10 30	20 57	77	77.8%
ムハマド・ユヌスさん ユヌスさん ムハマドさん	1 2		1	2 2	4	4.0%
ムハマド・ユヌス ユヌス					0	
ムハマド・ユヌス+肩書き ユヌス+肩書き	2	8 5	1 2	11 7	18	18.2%
合 計	21	34	44	99	99	100.0%

2007年受賞	朝日	毎日	読売	小計	1	計
アル・ゴア氏	9	3	6	18	133	63.3%
ゴア氏	24	62	29	115	100	03.3/0
アル・ゴアさん	1			1		
ゴアさん	1			1	2	1.0%
アルさん						
アル・ゴア	2	1		3	4	1.9%
ゴア	1			1	4	1.9%
アル・ゴア+肩書き	4	22	11	37	71	22 00/
ゴア+肩書き	8	12	14	34	71	33.8%
合 計	50	100	60	210	210	100.0%

% グラミン銀行とともに貧困層の経済的・社会的基盤を築いたことで顕彰されたユヌスは、「肩書き」よりも となった。またアナンと同様、 「モハメド・エルバラダイ」というフルネームの記載はみられなかった。 「氏」

國學院法學第50巻第3号(2012) られた。受賞当時、グラミン銀行総裁という役職・肩書きがあったにもかかわらず、この人は「氏」つきで呼ばれ 五七件(五七・六%)で、「氏」の敬称表記が合計七七件(七七・八%)と大多数を占めた。 八件(一八・二%)みられ、そのほとんどは が多く、「ムハマド・ユヌス」に「氏」をつけた表現が二〇件(二〇・二%)、「ユヌス」に「氏」をつけたものが 「総裁」であった。 また「さん」づけも計四件 「肩書き」は、 (四・〇%) と若干み

ることが多いのが特徴である。

れるなど、違いが生じている。 ビル・クリントン米大統領時代の副大統領の時に 毎日で「肩書き」つきが三四件中一三件(三八・二%)、読売で「氏」が四四件中四○件(九○・九%) |紙別にみると、二一件登場した朝日で、 他紙にほとんどみられない「さん」が二件 「情報スーパ ーハイウェイ構想」によってインターネットを普 (九・五%) みられ みら るほ

及させ、大統領選落選後は地球温暖化に関するドキュメンタリー映画『不都合な真実』への出演などで日本でもよ ターの場合は く知られるゴアは、「ゴア氏」の一一五件 一三三件(六三・三%)に「氏」 などの肩書きは、 「氏」と「肩書き」がほぼ半々で敬称を二分していたのに対し、ゴアの場合は「元副大統領」「前 フルネーム「アル・ゴア」プラス肩書きの表記が三七件(一七・六%)、 の敬称がつけられていた。「元」ということで先のカーターと似ているが、 (五四・八%)を筆頭に、「アル・ゴア氏」一八件(八・六%)とで合計 姓のみの カー

ア」プラス肩書きの表記が三四件(一六・二%)

ムによる関心の高まりもあって、

メディア的な話題性はカーターよりもあったようだが、

カーター

が

「大統領」で

エコロジー・ブー

の計七一件(三三・八%)にとどまっている。

き」が二五件

(四一・七%)

となっており、

相対比較でみれば、

極端に大きな差はみられ

ない。

テ 和

あったのに対して、 ゴアの場合は 副大統領」 であったという、 「『肩書きの力』 0) 差 であろうか

ると、 (六五・〇%) 聞 朝 別 日で には、 氏 に対して「肩書き」が三四件 登場数に濃淡がみられ、 が三三件 (六六・〇%) 毎日が最多の一〇〇件、 (三四・〇%)、読売で「氏」が三五件 に対し「肩書き」 が 読売が六〇件、 一二件 三四• 朝日が五〇件となった。 ○ % (五八・三%) 毎日で「氏」 に対して が 内訳、 六 をみ 肩 Ŧ.

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか) イサ でも一大ブームを巻き起こしたオバマは七四五件、 服役中の著作家 ラク・ 平合意交渉やコソボ独立の仲介案など調停役を務めた功績で授与された、 男性 リリ。 オバマ。 !のノーベル賞受賞者たちの最後の表となる表20には、 もう一人は、 そして、 運動家、 一〇年受賞の、 ○九年に「核兵器なき世界」に向けて国際社会へ働きかけた功績で受賞した、 劉暁波である。 中華人民共和国 アハティサーリは六九件がカウントされ、 そして劉 の民主化運 三人の敬称を掲げた。 一暁波は、 強い加っ 隣 の大国中国 元フィンランド大統領マ わって幾度か逮捕 一人は、 の民主化問 ○九年の大統領就任時 二〇〇八年、 投獄され 題 ルティ 0 関 米大統 懲役刑 アチ ・ア 0) 高 に日 エ 領 ハ

のみ は、 前 P ハティ 0 むしろゴアに似て、「氏」 フィンランド大統領」で、合計二〇件 記 ほどネー 載が多い。 ・サー ij 4 は、 バ 肩 ij 大統領退 書き」よりも ユ 1 がないためであろうか。 が三紙合計四八件 任後に平 氏 和調停に活躍した点で、 が多いのは、 (二九・〇%) にとどまった。 (六九・六%) 現役大統領時代に日本のメディアではあまり報道され と、 カーター 主たる敬称となってい どちらもフルネー と同じケー スであ る。 つるが、 ・ムで扱わ 肩書き」 敬 れるより 称 に は 関 元

を反映して、

本調査中最多の八九六件が数えられた。

111 新聞 別 に みると、 朝日は 全二二件中 氏 が _ 五件 (六八·二%)、 「肩書き」 が ~七件 <u>=</u> 八%

毎

Ě

は

全

力

1

ター

表20 アハティサーリ、オバマ、劉暁波の呼び方(延べ語数)(単位:件)

2008年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計 計
マルティ・アハティサーリ氏 アハティサーリ氏	1 14	15	18	1 47	48	69.6%
マルティ・アハティサーリさん アハティサーリさん マルティさん					0	
マルティ・アハティサーリ アハティサーリ		1		1	1	1.4%
マルティ・アハティサーリ+肩書き アハティサーリ+肩書き	3 4	8	5	3 17	20	29.0%
合 計	22	24	23	69	69	100.0%

2009年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	3 計
バラク・オバマ氏	2	2	2	6	195	26.2%
オバマ氏	87	53	49	189		
バラク・オバマさん			1	1		
オバマさん	10	2	7	19	20	2.7%
バラクさん						
バラク・オバマ	1			1	25	3.4%
オバマ	13	7	4	24	20	3.4%
バラク・オバマ+肩書き	3	2	9	14	505	67.8%
オバマ+肩書き(「オバマ一家」含む)	136	198	157	491	505	01.0/0
合 計	252	264	229	745	745	100.0%

2010年受賞	朝日	毎日	読売	小計	É	計 計
劉暁波氏	134	104	167	405	833	93.0%
劉氏	145	137	146	428	000	33.070
劉暁波さん	4	2	10	16		
劉さん	15	1	6	22	38	4.2%
暁波さん						
劉暁波	11	5	7	23	24	2.7%
暁波 (下の名のみ)		1		1	24	2.1%
劉暁波+肩書き					1	0.1%
劉+肩書き(「劉夫妻」)			1	1	1	0.1/0
合 計	309	250	337	896	896	100.0%

方、現役の米国大統領であるオバマは、「大統領」を「肩書き」とするケースが多く、

三紙合計で、

ル

ネ

七

てきたか 次ぎ、「バラク・オバマ氏」六件(〇・八%)と「オバマ氏」一八九件(二五・四%)が計 (三・四%) みられた点は みられた。「肩書き」にせよ「氏」にせよ、フルネームの「バラク・オバマ」よりも、 せて、「大統領」 ムの「バラク・オバマ大統領」一四件 (一・九%) と姓のみの「オバマ大統領」四九一件 「オバマ」という表記が大多数となっている。 また、 「さん」 づけが二○件 (二・七%)、 「敬称なし」 が二五 の肩書きがつけられた名前は五〇五件 他の受賞者とはやや異なった傾向といえる。 (六七・八%)を占めた。 それだけ日本の読者・メディアに また「氏」という敬称がそれに 呼び習わされ (六五·九%) 九五件 (二六・1 た姓 とを合わ 0) み

新聞はジェンダーをどのように表現し 件中 うな「さん」 る割合が朝日よりも高い い』ということなのかもしれない。 各紙別にみると、 「肩書き」 毎日で全二六四件中 づけが が 一六六件 朝日で全二五二件中 他紙よりやや多くなってい 傾向がみられた。 (七二・五%)、「氏」が 「肩書き」が二〇〇件(七五・八%)、「氏」が五五件(二〇・八%)、 「肩書き」つきが一三九件 その分朝日は、「オバマ」のような「敬称なし」や「オバマさん」 五一件(二二・三%)と、 (五五・二%)、「氏」の敬称が 毎日と読売で「肩書き」つきの占め 読売で全二二九 八九件

113 Ξ · ○% ٤ 件、 ほとんどが フルネームの 氏 「劉暁波」に「氏」のつくものが四〇五件 の敬称つきであった。以下、「さん」づけが合わせて三八件 (四五・二%)、合わせて八三三件 (四·二%)、「敬称

波の場合は

所属•

役職などがないためもあってか、

三紙合計

で姓の「劉」

に「氏」

四二八

九

なし」が二四件(二・七%)となった。

暁波氏」と「劉氏」とで若干各紙のウェイトが違い、 各紙別にみると、登場件数は読売が最多で三三七件、次に朝日が三〇九件、 朝日は 「劉暁波氏」一三四件 毎日が二五〇件となっており、 (四三・四%) に対して 劉

國學院法學第50巻第3号(2012) 氏」一四五件 件 (五四·八%)、 っている。 また、 (四六・九%)と二分され、毎日は 朝日で「劉さん」、読売で「劉暁波さん」を中心とした「さん」づけが、そして朝日で「敬称な 読売は 「劉暁波氏」一六七件 (四九・五%) に対して「劉氏」が一四六件 「劉暁波氏」一〇四件 (四一・六%) に対して「劉氏」は一三七 (四三・三%) とな

し」の「劉暁波」

が、やや目立つ。

になっている。 っていい 民主化を求めて国内で弾圧され拘束された社会運動家という点では、アウンサン・スーチーも劉暁波と同じとい 「女史」でのちに「さん」、ごく最近になって「氏」がつけられ出したといったように、ずいぶんと違ったも が、 その扱われ方は、 年代が違うとはいえ、 片や劉には圧倒的に「氏」がつけられ、 片やスーチーに

が あるのかよくわからない女性の場合とは、 「「女史」から「さん」、そして「氏」へと、変化してきたわけでもない。敬称のつけ方にどういう一貫性や規準 「氏」という敬称で表現されていることに変わりはなく、また、女性のように、 まったく異なっているのである。 時代によって呼び方が、たとえ

「氏」を分ける指標になるケースが多いようである。

また、男性の場合は、

全員がというわけではないが、所属先や役職が「現役」であるかどうかが、「肩書き」

しかしながら、

いずれにせよ男性は、ほとんどが

(8) 女性と男性のノーベル賞受賞者の間の顕著なダブルスタンダード

(田中和子ほか) の受賞者の敬称を、 体を通して振り返ることで、 まず、女性のノーベル平和賞受賞者に対する表現のしかたの変遷が著しいことに注目したい。 姓名の表記のしかたのいかんを問わずに「氏」「さん」「敬称なし」「肩書き」「女史」に五分類 女男の呼び方にあらわれたダブルスタンダードの実態を確認しておきたい グラフ8は、 女性

以上、「スーチー後」の女性と男性のノーベル平和賞受賞者の敬称を個別にみてきた。ここでは、あらためて全

いる。そして、 ーの三七〇件が著しく多く、二位のシリン・エバディ一六七件、エレン・サーリーフ一六四件を大きく引き離して このグラフから、 四位以下の受賞者は、 調査期間中に各受賞者が取り上げられた件数をみてみると、一 いずれも一○○件以下にとどまっている。 九九一年 のアウンサン・ スーチ

し、各受賞者ごとに三紙合計の値を示したものである。

れなくなっていることがわかる。「女史」はもはや死語と化したということができよう。 かしながら、 次に特筆すべきは、 スーチー以後は、 スーチーの「女史」の値の高さで、二四三件と全体の七割近くに達していることである。 次のリゴベルタ・メンチュで三件みられたのを最後に、「女史」はまったく使用

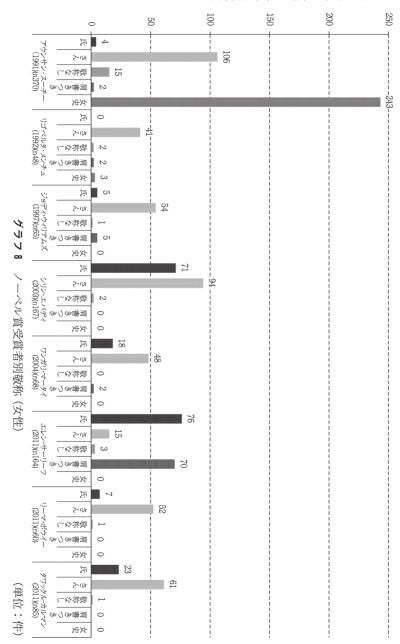
新聞はジェンダーをどのように表現し ては、 件、シリン・エバディで九四件、 ン・サーリーフを除き、最も多い呼び方となり、リゴベルタ・メンチュで四一件、ジョディ・ウィリアムズで五 「さん」づけは、アウンサン・スーチーに関しては一〇六件と第二位であったが、 大統領という肩書きが大部分を占め、「さん」は一五件にとどまったが、 ワンガリ・マータイで四八件を記録した。 唯一 リーマ・ボウイーでは五二件、 例外のエレ その後の各受賞者では、 ン・サーリーフに関 エ

方、「氏」については、 アウンサン・スーチー、 リゴベルタ・ メンチュ、 ジ \exists デ ゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゙゚ ウ イソリ アムズまでは 件

タ

115

ワックル・カルマンでは六一件であった。



数が少なくい

ずれも五件以下であったが、

それ以降は急増し、

シリン・エ

ーバデ

イ七七

件

エ V

ン ・

サー

ij

た は < あとは全員五件以下と圧倒的に少ない。彼女らに所属や役職がなく肩書きをつけることが不可能だったわけでは サーリーフの場合、 肩書きとして「元裁判官」や「弁護士」をつけることも可能だったはずだが、 現に肩書きをつけた呼び方も若干みられたことに注目したい。 このあとでみるように、 オバマなど男性の大統領が しかしながら、 「氏」よりも「大統領」 実際にはゼロ件であっ たとえば シリ の肩書きで扱 エ ディ た。

ま

ん」「敬称なし」「肩書き」に四分類し、 次に、 男性の ノーベ ル平和賞受賞者につけられた敬称を、 各受賞者ごとに三紙合計の値を示したのがグラフ9である。 姓名の表記のしかたのい か んを問 .わずに、「氏」 「さ

われることが大多数であるのとは異なり、「大統領」

の肩書きよりも「氏」

の敬称の方がやや上回っていた。

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか (田中和子ほか) るのに対し、八人いる女性の一人当たりの出現件数は一二八件で、一・五倍 してかなり多いことである。 これをみてまず第一に明らかなのは、 一人当たりに換算すると、一九人の受賞男性の一人当たりの出現件数は一 男性の出現件数 (三七一九件) が、 この差が 女性の出現件数 ~ある。 (一〇二七件) と比

九人中過半数の一一人で「肩書き」が「氏」を上回っており、 カルロ ス・ベロ (一七四件)、金大中 (四〇五件) の四人は、 中でもアラファト 圧倒的に「肩書き」で呼ばれている。 (一一一件)、ラビン(一〇八

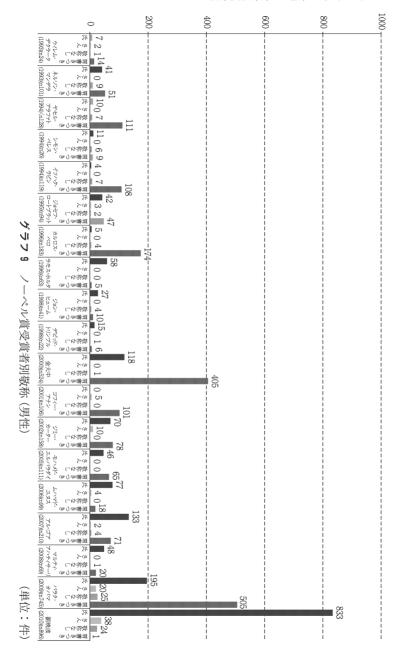
第二にいえることは、少なからぬ男性の受賞者が、

所属や役職などの

「肩書き」で呼ばれていることである。

ラク・ オバマ . О 「肩書き」(五〇五件) ŧ 「氏」(一九五件) との乖離が大きく、 モハメド・エルバラダイの 事務 一肩

117 き」(六五件) と「氏」(四六件) にも、 やや開きがある。 これらは、 現役の議長、 首相、 司教、 大統領



アー三三件、 ス・ホルタ五八件、

男性の場合、

「氏」が

「肩書き」に次いでいるということである。「氏」

が

「肩書き」を上回るの

はラモ

〇件)が半ば拮抗していた。

第四に、

男性では、「さん」や「敬称なし」がほとんどみられないということである。

「さん」がつく上位三人の

かわらず はあまり知られていない人びとと言ってもいいかもしれない。 「 氏 マルティ・アハティサーリ四八件、そして劉暁波八三三件の、計七人である。 が つけられる傾向が強いようだ。 ジョン・ヒューム二七件、デビッド・トリンブル一五件、ムハマド・ユヌス七七件、 また、 ジミー・カーターのみ、「氏」(七八件)と「肩書き」(七 その場合は、現役であり所属や肩書きがあるにもか ゴアを除いて、 アル \exists ・ ゴ

なっている。それに対して男性は、「氏」が一七四〇件 九%)、「敬称なし」が二五件(二・四%)、「肩書き」が八一件(七・九%)、「女史」が二四六件(二三・九%) が九六件 (二・六%)、「肩書き」が一七九九件 て比較しておこう。まず、女性は、「氏」が二○四件(全敬称に対して一九・九%)、「さん」が四七一件 劉、オバマ、カーターにしても、それぞれ三八件、二〇件、一〇件にとどまっている。 最後に、 右にみた女男それぞれの特徴をふまえ、受賞者たちにつけられた各敬称ごとの合計を、 (四八・四%)であった。男性は、「氏」と「肩書き」で二分され (四六・八%)、「さん」が八四件 (二・三%)、「敬称なし」 女男別 に算出 回

119 両者で九五%を占めているのに対し、女性は、「さん」が半分近くを占め、 以上からも、 敬称使用におけるダブルスタンダードは、明らかだといえるだろう。 残りは「女史」と「氏」に二分される。

きるであろう。

おわりに――ダブルスタンダード表現の解消に向けて

(1) 「肩書き」「氏」「さん」の意味するもの

接尾語としての敬称 (power)」と「仲間意識(solidality)」が、提唱されている。今回本調査研究でみてきたのは、代名詞ではなく、 社会言語学では、代名詞による敬称の研究をもとに、社会関係による言語表現の使い分け (およびそれに替わるものとしての役職名)であるが、同じような観点から考察することがで の要因として「力

的・中立的な報道記事の中であって、「宛名」や口語場面での「呼び方」とは違うので、「様」という最上級の敬称 はなじみにくく、それを用いないことが失礼にあたるとはみなされない。 あることは、 もともと「さん」が、「様」のくだけたいい方、 本稿の初めの方で『広辞苑』を引いて紹介したとおりである。新聞の場合、 親しみの気持ちを込めたいい方、 軽い敬意をあらわす接尾辞で 人名が出てくるのは客観

間に位置すると考えられ 方、「さん」には、「力」というよりも「仲間意識 役職名(肩書き)は、 社会的な権威をあらわすという意味で、「力 (power)」に関連するものとなり得 (solidality)」の要因が強めとみることができ、「氏」はその中

家が、同日の別の記事では「さん」と表記されていることなどにみることができる。「さん」を用いることで、そ の政治家をより身近な存在として感じさせることができるといえよう。 「さん」の、"仲間意識"や 〝親しみやすさ〟の次元の例としては、たとえば「氏」 の敬称がつけられてい

判中

となのだと思われる。

が 呯 奪」するという機能を果たしてきたといえよう。 犯罪者などに対し呼び捨てを通してきた背景には、 ぶ際に、 敬 称も肩書きもつかない「敬称なし」が用いられるケースは、二通りあると考えられる。一つは、 接尾語を何もつけないことにより、 社会的に負のイメージを与える「呼び捨て」である。 新聞・テレビでは、 「国民感情」があったとされているが、それは、「人権を剝 一九八〇年代後半から逮捕時の被疑者や、 長年メディア 犯罪者などを

判決確定後の犯罪者などに対する呼び捨て報道をやめて、「〇〇容疑者」「〇〇被告」「もと〇〇受刑囚」

裁

る名前であり、 家、その他著名人など、専門性の高い人びとを敬称をつけずに呼ぶケースである。これは、 どと、いわば もう一つは、 「肩書き」をつけるようにし、「人権に配慮」するようになってきている。 また、その一芸や名声に秀でた「力」ゆえに、 日本人や外国人の作家・芸術家、 俳優、 タレント、スポーツ選手、 敬称をつけなくても「失礼」に当たらないというこ 学者、 映画監 多くの人に知られてい 督 過 去 0 政治

下のような"序列"となるだろう。 "敬意度 のレベルを考えると、一 般的に、 この四 つの敬称の関係は (著名人の「敬称なし」は例外として)、

以

閔 恵靖 は 日本人は周囲

肩

書き

氏

 \vee さん

Ø(敬称なし

動物:「象さん」、 親密な関係を維持したいという意識が根底にあると述べつつ、 店・会社:「靴屋さん」、物:「お人形さん」、宗教:「仏さん」など)、対象 のあらゆる事物に接尾辞「さん」をつけることによって(たとえば職業:「 同時に、 対象に対する話し手の尊敬や親愛の 0 距 離 お 感を

言及対象によって、

ほとんど無意識のうちに使い分けているのである。

ものではないだろうか。

122 程度によって、「さま」「ちゃん」など接尾辞の形を変えていると指摘している。 日常的な言語実践をおこなっている私たち同様、 新聞もまた、「敬意度」 P ″身近さ″ の違いをあらわす敬称を、

別がわからなくなる場合があるとか、「さん」では軽い感じがする、 の敬称を女男とも「さん」に統一し、 ⁻ジェンダーに関する小委員会」をつくり、各部局で話し合ったというが、死亡記事の敬称を女男で統一すると性 本稿で言及したように、 うことは、 これまで男性よりも 朝日新聞では二〇〇二年、記事表現に関する社内の「取り決め集」を改訂し、 "軽い、敬称を女性に意図的につけてきたことを**、** ジェンダーについてのガイドラインを盛り込んだ。 といった反論も出たという。「さん」だと軽 新聞人が自ら認めたような 改訂作業にあたっては 死亡記事

に比べて女性への っていない事実からは、 本 対人的な言語表現の基本的な要因であり、どちらに優劣があるというわけではないが、 .調査研究で明らかになった、ノーベル平和賞受賞者の女性が「さん」で呼称される傾向が、 女性への敬称は それはジェンダーバイアスのひとつであり、 "敬意度』を低めに扱っているのではないかという疑念を払拭できない。 「力」と 「仲間意識」 ″親しみやすさ″ 重視というように、 *身近さ*を込めた扱いや、 ダブルスタンダードといわざるを得ない。 新聞紙上で用いられる敬称がジェンダーと連 所属や肩書きがないという事情以上に、 男性への敬称は 各紙必ずしも弱ま 動していると 「仲間意識

肩書き 氏 さん 先の

"敬意度 *

の序列に、

今回のノーベル賞受賞者のジェンダーをあてはめれば、

次のようになろうか。

ように、

一般記事では、

いまだに男性が登場する場合は「氏」で、女性が登場する場合には「さん」づけが

多い

123 新聞はジェンダーをどのように表現し (田中和子ほか) てきたか

会の今後の調査課題である。

女性

男

催

V

男性

ながら、 分を行わない」といったルールに加えて、「積極的に男女平等を促す表現を作り出す」と打ち出している。 職業を固定化しない」「男女間に優劣・上下の関係が存在するかのような扱いをしない」「必要以上に性 朝日は その方針に従って、 「取り決め集」 の中で、「男女のいずれかを排除したり、 死亡記事については敬称が「さん」に統一されたものの、 いずれかに偏ったりしない」「性別により役割' 本調査研究が明らか 別による区 にした かし

のか、 という実情をみると、どこまで社内的にこの に関する研修や表現ガイドラインは、 またガイドラインをテキストにした社内教育が各メディアでどのように行われているかにつ 各社にあるとされているが、そこにジェンダーの視点がどの程度入って ル ルル が徹底されているのか、 疑問が残るのである。 人権 いては 差別問 本研 61

(2) 変化の背景にある女男平等施策の進

0) は明らかに変化しつつある。 シノーベ とはい ル平和賞受賞者に対する敬称の調査からも、 本研究会のほぼ 今回行ったアウンサン・スーチーに対する敬称のデータベース調 五 年おきの調査でも明らか 「女史」 になっているように、 の使用は 初期スー 女性と男性の チー」 時代の九一年には多か 敬称 査および女性と男性 0) 違 41 は 量 的 に

たもの

Ó

九二年のメンチュで激減し、

それ以降は皆無となっている。

性にもつけるようになったのは、これまでにはなかったトレンドが始まっていることを示唆している。 その一方、二〇〇〇年代に入ってから、それまでは男性の ″専売特許〟であった観のある「氏」という敬称を女

とで敬称を使い分けるダブルスタンダード表現が、減ってきていることは間違いない。

國學院法學第50巻第3号(2012) ようになっている。政治家や取締役をはじめとする高い地位に就く女性は、 の均等法施行以降に入社した女性たちが企業の中堅世代となり、会社や官公庁など社会で肩書きのある地位につく こうした変化に影響していると思われるのが、一九八五年に成立した、男女雇用機会均等法である。 先進国の中でもきわめて少数であり、 一九 八八六年

また、遅々とした歩み方でしかないが、それでも少しずつ増えてきていることは確かである。

されるに至っている。 対する異なった取り扱いが禁止され、 ホールスタッフ」などのように、どちらかの性を含みこんだものからジェンダー・ニュートラルなものへと変更 また、一九九九年には均等法が改正され、そこでは、これまで努力義務とされていた募集・採用時点での女男に 採用に際して使用する職業名も「看護婦」 から「看護師」、「ボーイ」から

さらに、一九九九年の男女共同参画社会基本法の公布・施行をはじめとする、

公的な女男平等施策

の進展

Ł

法 n 目する必要がある。二〇〇〇年の国連特別総会時には、 始まった。 クで開催されたが、 (○二年)、「次世代育成支援対策推進法」「少子化社会対策基本法」(○三年)などの法律が矢継ぎ早に施行さ そして、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(○一年)、「改正育児・ 翌〇一年には日本でも男女共同参画局と男女共同参画会議が設置され、 ポスト北京会議として「女性2000年会議」 | 男女共同参画週 が 間

国は、 男女共同参画社会づくりの 「行動計 画 におい て、 あらゆる分野で女性が活躍する施策を掲げ、 政治、 行

あ(13) 推進している。 企業等の公的領域で政策・方針決定過程に参画する女性の割合の数値目標を定めるなど、 敬称のつけ方をはじめとして、 女性と男性を紙面上で同等に扱う環境は、 徐々に整いつつあるので 女性を増やす施策を

┐ ⑶ 時代の ′風〟とともに新聞社の考え方も変化

ほぼ合致する。 子」「女史」といったことばづかいを取り上げて、「『嫌だ』と声をあげていこう」と提案している。 前3時」性差別解消、 メリット」という記事を掲載して、 日は、九一年一一月七日にも、 た「マドンナ」ということば、また「主婦」をはじめとした「女性は家庭」という固定観念等を批判してい 聞週間によせて 座談会」が企画され、「女史」や、「女性○○」「女流○○」、当時女性の議員候補者によく使 もたらされてきた。たとえば、朝日一九八九年一○月一七日の新聞週間特集では、「女性から見た日 論がなされるようになっている。こうした変化は、一方では、女性の新聞記者たちを中心にした内部批判によっ からの批判は、 「女史」ということばづかいや、女性と男性に対する「さん」と「氏」の使い分けなどに関して、 これらの時代の 九〇年代前半に、 ″風″を、 読者の声が支えに」というコラムで、女性の記者が、「OL」「女性会社員」「未亡人」「婦女 新聞メディアも感じたのだろう、一九八〇年代半ば以降、 既に紹介したように、メディア欄で「スー・チー『女史』でいいの? 本調査でも目に見えて「女史」が減り、「さん」づかいになって行った時 問題提起を行っている。 また、毎日九三年九月一三日の夕刊では、「[校閲部午 新聞社内部 少ない これらの 本 K お 性区別 - の新 ながらぎ 期 る。 7 には わ 7

また、二〇〇一年発行 0 共同通 信社 『記者ハ ンド -ブック [第9版] では、 「差別語、 不 快用 語 0 章 KZ お け る

もある。もっとも、 るよう指示しているところに、 -女流→『女流名人』などの固有名詞以外は使わない。」と打ち出しているほか、「女史→○○○○さん」という指示 「▽性差別」の項で、「女性を特別視する表現や、 それ自体がこの段階では、 女性を男性から区別して扱うことになってしまうことに気づかない、 男性には当然のようにつけられている「氏」ではなく「さん」に 男性側に対語のない女性表現は原則として使わない。」として、 共同通信 社

國學院法學第50巻第3号(2012) たちからの声よりも、 間特集が、 死亡記事の敬称を女男とも「さん」に統一し、ジェンダーについてのガイドラインを盛り込んだと報じたことにつ マニュアルの いては、 共同通信社の 既に本稿で紹介した。もっともそれは、「読者からの声に押される形だった」のだが。 「紙面をジェンダーの視点で」と題した特集面を組み、社内の「取り決め集」を四年ぶりに改訂 問題があるといえよう。 『記者ハンドブック〔第9版〕』の刊行と時を同じくして、二〇〇二年一〇月一三日朝日の新聞 顧客である読者からの声の方に「聞く耳を持った」ということかもしれ 新聞 社内部の女性

週

開始当時の一 ただし、「有効期限」 ったのは、 また、 実際にこの時期に女性に対する敬称に「氏」が増えたことは、これらの成果のあらわれであると考えられ 新聞紙面における女性に関する表現に変化をうながしたもう一つの要因として、新聞社において、 本稿のデータで示した通りである。 九八五年には女性の記者の数が全国でわずか二六九人に過ぎなかったものが、二〇一一年には三二二 があるらしく、 時間的経過とともに「氏」から「さん」へと、つけられる敬称が戻ってしま

五人、 込んだ職業語 性の記者が、 全記者二万三〇五人の一六%へと増えたことが、少なからず関係していることも確かであろう。 男性中心の新聞社内で常用され、意識の中で自動化されてしまっている女性冠詞やジェンダーを含み ステレオタイプ表現、 また「氏」と「さん」の使い分けなどに対し、 必ずしも疑問を持たずに使い 一方で、

表現 の不断の見直しを全社的に行っていくことが必要であろう。

(田中和子ほか) つい ほぼ五年おきに実施してきた性別冠詞、 分析を行ってきた。 以 新聞におけるジェ 美 て、 全国 本稿では、 紅紙 三紙 新聞 ンダー表現 朝 H 紙面 . 上にお 毎日 のダブル 読売) いて、 ジェンダーを含み込んだ職業語、 スタンダードは、 人名に付される敬称が女性と男性とで異なるダブルスタンダード の記事データベ 敬 ースを用いて収集した量的なデータに基づい 称 のつけ方にだけみられる現象ではなく、 ステレオタイプ表現、 他者に付随させ 本研 究会が 詳 表現 細

新聞はジェンダーをどのように表現してきたか 性別を二分した上で、そこに価値の序列を付与する社会意識と、 現を是正するよう働きかけることと、 いるという、 めとするメディアは、 アにも、 れる表現、 同様に、 さらには 本稿冒頭で表明した立場に立つならば、 あるいはそれ以上に、ダブルスタンダード表現が横溢している。 記事中の 社会意識や個人の思考方法を反映するとともに、そうした社会意識や思考方法を培養しても 0 ディスコースや配された写真などにもあらわれてい 私たち自身のダブルスタンダードに根ざした思考方法を改めるべく努力する 新聞をはじめとするメディアに対して、ダブスタンダ 私たち一人ひとりの思考方法があ る。 その根幹には、 もちろん、 新 女性と男性とに る。 聞以外の 新聞 [をはじ ンメデ

本 調 査研究が、 メディアとオーディエンスの 両方に対する働きかけの実践に、 多少なりとも資することができれ

127 ば と願ってい

ことが、

女性と男性を対等に扱い、

表現するための

実践

0

両輪として求められているといえるだろう。

- 1 なお、朝日新聞は一回あたり七七九万部、 ほとんど前年割れで推移している。 合わせて一部とカウント)。ただし、 「新聞公査レポート」による二〇一一年上半期の平均)となっている。 社日本新聞協会による、 加盟紙を対象とした二〇一一年一〇月時点での調査 特に、スポーツ新聞の落ち込みと、 総発行部数がピークだったのは、 毎日新聞は三四五万部、読売新聞は九九八万部の販売部数 五三七六万部を記録した一九九七年のことであり、 朝夕刊がセットになった新聞の部数の落ち込みが激し (朝刊・夕刊をセット販売しているものは朝夕刊 (紐日本ABC協会の調査
- 2 男七○○○人に対して行われたもの(回答者数は四○九二人)。 日本新聞協会広告委員会『2011年全国メディア接触・評価報告書』 日本新聞協会、二〇一二年。 調査は一一年に全国の女
- 3 女性と新聞メディア研究会が行ってきた各調査の詳細については、 次の論文を参照
- 【一九八五年調査】田中和子・女性と新聞メディア研究会「新聞紙面にあらわれたジェンダー 性差別表現の量的分析を中

心に

九九一年調査】同 —」『国学院法学』第二八巻第一号、一九九〇年、八七~一一九頁。 「新聞紙面にあらわれたジェンダー(その2)― 性差別表現をめぐる一九九一年の紙面分析を中心に―

同右誌

第三二巻第三号、一九九四年、一一七~一七九頁。

【一九九六年調査】同「新聞は女性をどのように表現しているか 同右誌、 第三六巻第一号、 一九九八年、八五~一五〇頁。 『新聞紙面にあらわれたジェンダー』一九九六年調査

【二〇〇一年調査】同 心に――」同右誌、 「新聞において女性はどのように表現されているか 第四三巻第四号、二〇〇六年、六九~一六二頁。 『新聞紙面にあらわれたジェンダー』 第四回調査を中

【二〇〇六年調査】同 心に――」同右誌、 「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在 第四六巻第四号、二〇〇九年、五五~一三四頁。 『新聞紙面にあらわれたジェンダー』 第五回調査を中

の経年分析および『言語計画』 でさらに詳しく分析を行い、 解析と投書欄、 なお、○六年の第五回調査は、 テレビ面・ラジオ面、 同 の観点から――」同右誌、 「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在 同「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在(その2)— 『少年』の用法の分析を中心に――」 第四八巻第四号、二〇一一年、一二七~二三一頁、 同右誌、 第四七巻第三号、二〇〇九年、 (その3)— 『延べ語数 第 五回調査デー において過去二〇年 ح 『異なり語数 タの多変量

- 4 p. 15. Eichler, Margrit, The Double Standard: A Feminist Critique of Feminist Social Science, London: Croom Helm, 1980
- 6 (5)「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在 誌 「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在 一二四頁の表18を再掲 (その2)-『新聞紙面にあらわれたジェンダー』第五回調査を中心に -第五回調査デー -タの多変量解析と投書欄! テレビ 面 ・ラジ 才 掲
- (田中和子ほか) 7 「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在 『少年』の用法の分析を中心に――」同右誌、二九~三七頁を参照のこと。 ―『新聞紙面にあらわれたジェンダー』第五回調査を中心に 同 右
- 誌 一二七頁の表20を再掲

8

遠藤織枝『気になる言葉

日本語再検討

南雲堂、一九八七年、一二八~一三四頁

面

- 新聞はジェンダーをどのように表現し てきたか れているといっていいだろう。 本文の初出では "Aung San Suu Kyi"と表記ののち、"Suu Kyi"と書かれていることが多い。「スーチー」という略称は広く使わ 毎日新聞、一九九六年七月一日「[おことわり] ミャンマー人の名前の表記の仕方を変えます」。 なお、 海外の英字新聞でも
 - ロナルド・ウォードハフ、田部滋・本名信行訳『社会言語学入門(上・下)』リーベル出版、 一九九四年 九 八八九年
 - に、 また、日本放送協会放送倫理委員会編『NHK放送ガイドライン2011』日本放送協会、二○一一年、二七頁では、「NH 毎日新聞社のホームページ 新聞界のトップを切って、 人権に配慮して逮捕者の呼び捨てをやめて『容疑者』の呼称を付け始めました。」とある。 「毎日新聞商品紹介」http://www.mainichi.co.jp/publish/newspaper.html には、「一
 - 心理に強く訴えるという特性を考慮した結果によるものである。」とある。 は昭和五九年(一九八四)から他社に先駆けて犯罪報道での名前の などの呼称をつけて放送している。 人権尊重の立場を重視するとともに、 『呼び捨て』を原則としてやめ、 活字メディアに比べて、 『肩書』のほかに『容疑者』 放送が視聴者の感情や
- 12 tive studies of language culture』 2時、 閔惠靖 「呼称表現『~サン』付けの使用範囲 二〇〇四年、 -日韓比較調査を中心に 一三七~一五二頁。 『四国学院大学 L&C: journal,
- 129 13 たとえば、 一九九〇年には女性の就業者数(全産業)は二五〇〇万人台となり、 全就業者の四割を占めるようになっていた

変わってきている。 の考え方に否定的な回答は、 Ų 内閣府 (当時総理府)による九二年の「男女平等に関する世論調査」では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と また、フェミニズム関係の書籍も九○年前後から数多く刊行されるようになり、 八〇年前後に女性で二割台だったものが四割近くに増え、男性で三割近くになるなど、 九五年の第四回世界女性会議 実態も意識も

(北京会議)頃からは、ジェンダーということばが行政やアカデミズムで使われるようになった。

14 ている。 うものであるが、その理由として、本稿と同じように「フェミニズム運動」「表現ガイドライン」「新聞の送り手側の変化」を挙げ をみている。その結果は、 新聞メディア研究会のいう「男性冠詞」)を、 徐はここで、 徐微潔「戦後新聞紙面における『男性標示語』の推移」『筑波応用言語学研究』18号、二〇一一年、一三九~一五一頁を参照 朝日新聞の一九四五年から二〇〇九年にかけての「男」「男子」「男性」「男流」の「男性標示語」 本研究会のこれまでの調査と同様に、,男、,男子、冠詞は減少したものの,男性、冠詞は増加したとい 縮刷版とデータベースによってほぼ一○年おきに調査し、戦後から現代のトレンド (私たち、

15 や無理があると思われる。 ただ、"男"、男子、がかんむりにつく語が減り、男性に 『記者ハンドブック〔第9版〕』共同通信社、二〇〇一年、 「女性冠詞」つきの表現が減った理由にこそ、三つの影響があったととらえるべきだろう。 がかんむりにつく語が増えた要因について、この三つで説明するのはや 八六頁。

田中和子(国学院大学法学部教員)、*共同執筆者

立のざわ特別支援学校教員)

諸橋泰樹

(フェリス女学院大学教員)、

岡野雅雄

(文教大学情報学部教員)、

須藤典子